第8回小林市・高原町・野尻町合併協議会
(会 議 録)

日時：平成20年10月9日(木)
午前10時から
場所：小林市中央公民館大ホール

小林市・高原町・野尻町合併協議会

第8回小林市・高原町・野尻町合併協議会次第

1 開 会

2 会長あいさつ 小林市長 堀 泰一郎

3 議 事

① 報告事項

報告第21号 第7回小林市・高原町・野尻町合併協議会以降の経過について… 2

報告第22号 保健・医療関係（医療）について……………別冊

② 協議事項

協議第56号 一般職の職員の身分の取扱いについて…………… 4

協議第57号 特別職の職員の身分の取扱いについて（行政委員会を除く）… 7

協議第58号 使用料、手数料等の取扱いについて…………… 1 2

協議第59号 公共的団体等の取扱いについて…………… 1 4

協議第60号 補助金、交付金等の取扱いについて…………… 2 0

協議第61号 自治会・行政連絡機構の取扱いについて…………… 2 2

協議第62号 児童福祉関係について…………… 2 4

協議第63号 その他の社会福祉関係について…………… 2 6

協議第64号 保健・医療関係（保健、健康づくり）について…………… 2 8

協議第65号 その他関係（住民）について…………… 3 0

協議第66号 その他関係（選挙）について…………… 3 2

協議第31号の1 障害者福祉関係について…………… 3 4

③ 確認事項 …………… 3 6

1. 第9回小林市・高原町・野尻町合併協議会の開催について

4 そ の 他

5 閉 会

第8回 小林市・高原町・野尻町合併協議会 出席者

小林市・高原町・野尻町合併協議会委員

1. 会 長	小林市長	堀 泰一郎	16. 委 員	入佐 廣登
2. 副会長	高原町長	日高 光浩	17. "	清水 公雄
3. "	野尻町長	長瀬 道大	18. "	前原 淳一
4. 委 員		中屋敷 慶次	19. "	竹之内 昭一
5. "		小島 利春	20. "	丸山 崇
6. "		西道 紀一	21. "	瀬戸口 美智子
7. "		久保田 恭弘	22. "	原田 富雄
8. "		首藤 美也子	23. "	淵上 貞継
9. "		松元 朝則	24. "	福本 誠作
10. "		永野 本助	25. "	杉元 豊人
11. "		種子田 與市	26. "	赤崎 峯雄
12. "		西岡 長成	27. "	見越 南州男
13. "		下別府 明	28. "	楠元 フタミ
14. "		龍神 豊美	29. "	竹山 昭徳
15. "		坂下 実千代		

(顧 問)

宮崎縣市町村合併支援室長 坂本 義広 宮崎県西諸県農林振興局長 後藤田 悦男

(幹 事)

小林市 末元 三夫	高原町 福留 宜文	野尻町 吉田 哲幸
肥後 正弘	高妻 経信	内村 明生
殿所多美雄	久保田芳人	谷元 弘朗
南崎淳一郎		
久米 勝彦		

(事務局)

事務局長 倉園 凡生	事務局員 野口 健史
事務局次長 谷川 浩二	" 柴内 敏彦
事務局員 鶴水 義広	" 芝田 和之
" 税所 将晃	" 馬場 倫代
" 水町 洋明	" 楠元いづ美

(欠席者)

委員 山田 福雄 (小林市) 委員 坂本 新平 (小林市)
委員 高岩 都津子 (小林市)

以上 (敬称略)

午前10時00分開会

事務局

皆さんおはようございます。ご案内をいたしました時間となりましたので、ただいまから会議を始めさせていただきます。

本日は、合併協議会にご出席いただきまして大変ありがとうございます。私は、本日の進行役を務めさせていただきます計画グループの鶴水と申します。よろしくお願いたします。

会議に先立ちまして皆様をお願いをいたします。携帯電話をお持ちの方は、電源をお切りになるか、マナーモードにさせていただきますようお願いいたします。また、傍聴の皆様は、傍聴規程に基づき、静かに傍聴くださいますようお願いいたします。

まず、本日の会議につきましては、27名の委員の皆さんがご出席でございます。したがって、小林市・高原町・野尻町合併協議会規約第10条の規定によりまして、本会議は成立しておりますことをご報告申し上げます。

それでは、最初に、本協議会の会長であります堀小林市長にごあいさつをお願いいたします。

会長

皆さん、おはようございます。本日、第8回の合併協議会を開催するにあたりまして、一言ごあいさつを申し上げます。

合併協議もいよいよ終盤に差しかかってまいりましたが、委員の皆様方の深いご理解とご協力により、おおむね順調に協議が進んでおります。今回でほとんどすべての協定事項、項目について協議が終了をする予定であります。これもひとえに皆様方の昼夜を分かたぬご尽力のたまものであり、心から敬意を表しますとともに、深く感謝申し上げます。

その中で、特に保健・医療関係の公立病院の取扱いにつきましては、首長会、幹事会合同会議等におきまして鋭意協力・協議を重ねているところであります。この問題は西諸の地域医療の根幹にかかわる重要な課題であります。ご承知のとおり、全国的な医師不足に伴う医師確保の問題、公立病院経営に関する見解の相違等により調整が難航をしております。今後の合併協議への影響も懸念されるところであります。

詳細につきましては、後ほど報告事項に追加する形で、経過等につきまして報告をさせていただきますと考えております。

本日は、このほか一般職・特別職の身分、補助金、交付金、自治会、行政連絡機構、児童福祉等の12項目について提案をさせていただきます。協議事項も多く、午前中からの開催ということで、委員の皆様方には大変ご苦労をおかけいたしますのが、熱心なご議論を賜りますようお願いを申し上げます。会長としてのあいさつにさせていただきます。ありがとうございました。

事務局

どうもありがとうございました。

それでは、早速議事のほうに入らせていただきます。

協議会規約第10条第2項の規定によりまして、会長が会議の議長となると定めておりますので、これから会長のほうで議事進行についてよろしくお願いたします。お願いたします。

会長

規約の定めるところによりまして、私が議事を進めさせていただきます。ご協力をよろしくお願を申し上げます。

また、会議録作成上の都合によりまして、意見やご質問をされる委員の皆様方は、氏名をおっしゃった後に発言をしていただきますようお願いを申し上げます。

それでは、まず会議録署名委員の指名をさせていただきます。

会議録署名委員は、野尻町の杉元豊人委員と小林市の種子田興市委員をお願いをいたします。

ここで、協議に先立ちましてお諮りをしたいと思います。会議の傍聴につきまし

	<p>ては、原則公開としておりますが、本日の会議を公開としてよろしいかどうかお伺いをいたします。ご意見はありませんか。</p> <p style="text-align: center;">〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕</p>
会長	<p>ご意見ありません。ご異議なしと認めます。よって、本日の協議会は公開ということにさせていただきます。</p>
局長	<p>それでは、会次第によりまして、以後、協議を進行させていただきます。</p> <p>また、傍聴の皆様方をお願いをいたしますが、発言あるいは拍手などは議事進行の妨げとなりますので、慎んでいただきますようお願いを申し上げます。</p> <p>それでは、まず報告事項についてであります。報告第21号第7回小林市・高原町・野尻町合併協議会以降の経過について、事務局の報告を願います。</p>
局長	<p>協議会資料の2ページをお開きください。</p> <p>報告第21号第7回小林市・高原町・野尻町合併協議会以降の経過について、第7回小林市・高原町・野尻町合併協議会以降の経過について、別紙のとおり報告する。</p> <p>別紙というのが次ページの3ページでございます。ここに一覧にしてございますが、首長会、部会、分科会等を含めて6回の会議を持ちましたことを報告いたします。</p> <p>以上です。</p>
会長	<p>お聞きのとおりですが、今の報告につきまして何かご質疑があればお出しください。</p>
会長	<p style="text-align: center;">〔「なし」と呼ぶ者あり〕</p>
会長	<p>ご質疑もないようでありますので、報告第21号につきましては報告のとおりご承認いただきたいと思います。</p> <p>次に、本日追加でご報告をさせていただきますが、報告第22号保健・医療関係の（医療）について、私のほうから、公立病院に関する協議経過の概要及び小林市の見解についてお話させていただき、あわせて日高町長より、高原町の見解についてご報告をお願いをいたしたいと思っております。</p> <p>それでは、私が先に報告をさせていただきます。</p> <p>本日、皆様方のお手元に配付しております追加報告資料に基づきまして、報告第22号保健・医療関係（医療）のうち、公立病院に関するこれまでの協議経過及び小林市としての見解につきましてご報告申し上げます。</p> <p>このことにつきましては、小林市、高原町においてそれぞれの立場で調査研究しながら、8月の12日から9月29日にかけて、1市2町による首長会と首長会、幹事会合同会議におきまして、4回にわたって鋭意協議をしてまいりました。</p> <p>その中で、高原町の見解としましては、住民説明会において、町立病院は現在の状態で存続させ、病床を確保してほしいとの町民の声が多かったこと、高原町の病床は町立病院が56床、民間が17床の計73床という現状で、地域医療の拠点である町立病院の存続は重要であることから、公立病院として現状維持、現行体制のまま新市に引き継ぎ、公立病院改革ガイドラインによる改革プランの期間である5年以内に新市において調整するということを強く要望をされております。</p> <p>また、医師の給与については、高原町は町立病院の医師確保のため、長い歴史の中で医師給与を手厚く処遇してきており、医師給与の問題は医局との調整も必要になることとなります。医師給与を小林市の制度に統一すると医師確保に問題が出てくることが予想され、医師の確保はできれば病院の存続そのものが危うくなるため、当分の間は現行の医師給与のままお願いをしたいとのこととなります。</p> <p>再度言い直します。医師の確保ができなければ病院の存続そのものが危うくなるため、当分の間は現行の医師給与のままお願いをしたいということとなります。</p> <p>さらに、医師の派遣については、高原町が鹿児島大学医局に確認したところ、現行体制の町立病院であれば、これまでどおり医師を派遣するとの回答を得ているとの見解であります。</p>

一方、小林市の見解といたしましては、市立市民病院は平成21年度から公営企業法の全部適用となるため、合併した場合、組織は1つ、給与は一本化しなければならないこと。2つの病院機能を存続させるためには高原町立病院は別の経営形態とし、現院長を中心とした現行の体制による指定管理者制度とするなど、経営形態の見直しも含めた検討が必要であること。市民病院は、人件費が60%を占めており、高原町に合わせた医師給与の引上げによる一本化は難しいこと、また医師の確保の問題として、必要な19名の医師のうちまだ数名の医師は確保できていない現状であり、一方で合併すれば新市は2つの病院で約200床規模となるため、病床数に応じた医師の確保ができるか心配であること。

鹿児島大学に医師派遣を維持していただくようお願いをいたしました。研修医制度の改正等により、大学側も医局員が減少しているため、これまでどおり体制の派遣は難しい状況であるとの見解であったこと、給与の一本化と医師の確保は両立できないことなど等を主張してまいりましたが、現時点では、高原町側のご理解がいただけないところであります。

野尻町の見解としましては、公立病院については難しい問題であり、両市町の気持ちはよくわかるが、合併した場合は1つの自治体に対する医師派遣は減らされるのか心配であるという見解であります。

以上のような1市2町の見解を踏まえた上で協議をしてきたところでありますが、資料の2ページにありますように、合併に伴う問題といたしまして、現時点で9点の課題が考えられるところであります。

まず1点目に、合併後、1つの市に2つの公立病院となった場合、医師派遣の減員により全体の医師派遣枠の減が懸念され、公立病院としての病院の存続にかかわる問題が出てくることであります。

2点目として、全国的な医師不足の中で、鹿児島大学としても医師派遣が非常に困難な状況になっており、今後は医師過重労働を緩和するためにも、医師の分散を避け、拠点の集約化が必要であるとの見解であります。

3点目として、大学からの医師派遣がなくなれば、二次救急医療体制の維持をはじめ、西諸の地域医療に多大な影響が出てくることであります。

4点目として、公営企業法の全部適用では、2つの公立病院の給与体系を一本化しなければならないが、仮に高原町の医師給与を下げて小林に合わせて調整した場合、現在の医師が残る保証がないということでありあります。

5点目として、一方で仮に小林市の医師給与を上げて高原町に合わせて調整した場合、年間5,000万の財源が必要となるため、今後の市民病院の財政計画から見ても、医師給与の引上げによる給与表の一本化は難しいということでありあります。

6点目として、小林市立市民病院は、平成21年4月から公営企業法の全部適用に移行いたしますが、仮に高原町も組織、給与等を一本化し、公営企業法の全部適用に移行する場合は、合併までに準備を進める必要が出てくるということでありあります。

7点目として、公営企業法の全部適用による組織の一本化や給与の調整等をせず、高原町立病院が合併まで指定管理者制度を導入するには、高原町としては制度導入に係る諸問題や時間的な制約等に困難が予想されるとお考えであるということでありあります。

8点目として、高原町立病院が指定管理者制度を導入した場合、現在の看護師等の職員の雇用問題等が出てくるということでありあります。

9点目として、高原町民は現行規模、現行体制での町立病院の存続を望んでいるため、経営形態を公立病院から指定管理者制度に変える場合、町議会や住民への説明が必要となるということでありあります。

以上のように、公立病院問題における合併に伴う課題は山積しており、合併準備作業や電算システム統合をはじめ、厳しい合併協議スケジュールの中で公立病院問題だけを先送りをするという形で合併協定調印することはできないため、合併協議

が暗礁に乗り上げているのが現状であります。

失礼しました。また、小林市の見解といたしまして、根本的問題として、全国的な医師不足の状況の中に、合併のいかににかかわらず、市民病院の医師が確実に確保できるのかという不安があり、仮に医師が確保できない場合、二次救急医療体制の維持をはじめ、西諸の地域医療が根底から揺るぎかねない憂慮すべき事態になるのではないかと懸念をいたしております。

このことはすなわち、小林市立市民病院の存続問題だけにとどまらず、高原町立病院からの患者の受入れもこれまでのようにはできなくなるということであり、このことにより地域医療が崩壊すれば、西諸全体に多大な悪影響を及ぼすことになるわけであります。

このように、公立病院問題につきましては、西諸の地域医療のあり方と今後の合併協議の行方を左右する大変重要な課題であります。私は、小林市長として、高原町長に対し、新しい市としての2つの公立病院の機能を残すために、経営形態はどうあるべきなのか、救急医療をはじめ、西諸地域医療の確立のためにはどうすればいいのかという点について十分熟慮していただき、何とか調整に向けてご努力をいただく方向で前向きにご検討いただけないかと切にお願いをしております。

9月29日の首長会における現段階での協議内容は、小林市としては高原町立病院の現行規模と体制を維持することと、西諸地域の医療体制を考えた場合、町立病院は現院長及び現行体制による指定管理者制度を導入されたほうがよいのではないかと考えております。職員の雇用問題をはじめ、制度導入に係る諸問題は、合併までの1年半にお互いに研究し検討していけば調整することは十分可能であると考えております。

高原町としては多くの町民からの要望のとおり、町立病院の現行の規模と体制を維持していただきたいという主張であります。野尻町としては、小林市、高原町がそれぞれ言われることに理解を示すが、このことが合併の支障になってはいけなと。約8割の協議を終えている状況で、何とか努力をしていただきたい。合併を成功させたいというお考えであります。

以上のような協議を踏まえて、高原町が指定管理者制度の導入について、現院長ともご相談をされ、議会や町民の方々にご説明、意見を集約してから再度協議をするための時間をいただきたいということでありましたので、私としては、厳しい協議スケジュールでありますけれども、少なくとも10月21日の首長会、幹事会合同会議までに検討結果をご回答いただくことを条件に、合併期日における現院長及び現行体制での指定管理者制度の導入について前向きなご検討をお願いしたところであります。

高原町としては明日10月10日から10月16日までの5会場において住民説明会を開催される予定であるとお聞きしております。

なお、高原町としての見解及び住民説明会に対する方針、対応等につきましては日高町長よりご報告をお願いいたします。

以上のとおり、公立病院に関するこれまでの協議経過及び小林市としての見解につきましてご報告いたしましたので、皆様方の深いご理解とご協力を賜りますようお願いを申し上げます。

以上であります。

日高高原町長

おはようございます。ただいま小林市長さんから首長会、幹事会におきます2つの公立病院問題についてご説明があったところでございます。高原町といたしましては、昨年の10月から11月、19日間、20会場におきまして、住民説明会において、合併における合意形成を図り、説明を行ってきたところでございます。

そういう中で、高原町立病院問題については、ほとんどの会場、多くの町民の皆様から現体制、いわゆる公立病院での存続、現行規模の存続を強く望まれたところでございます。

そういうことで、私これまで協議に参加をさせていただきながら、高原町民の熱

い思い、町民の負託を受けまして協議に参加をいたし、高原町民の思い、高原町の考え方を述べさせていただきました。そして、今後ともまた、いろんな形を踏まえまして、町民の意向を把握いたしながら説明をしてまいりたいというふうに考えております。

まず、小林市長さんからただいまございましたが、2ページにございますように、小林市長さんの見解、小林市といたしましては高原町立病院の現行の規模と、体制を維持することと西諸地域の医療体制を考えた場合、町立病院は現院長及び現行体制による指定管理者制度を導入されたほうがよいと考えるという小林市のご意見でございます。

そのことを受けまして、高原町といたしましては、小林市・高原町・野尻町合併協議会における国民健康保険高原病院事業の取扱いに関する住民説明会について、10月1日の区長会文書でお知らせをさせていただいております。現在、小林市・高原町・野尻町合併協議会が本年4月1日に設置されまして、1市2町の代表でございます委員の皆様方が日夜を問わず合併に関するあらゆる事項について鋭意協議を行っていただいております。そのことにつきましては心より敬意を表する次第でございます。

こうした中、協議会に提案する協議事項の最終調整を行う首長会、小林市長、高原町長及び野尻町長の3者会議で、小林市民病院と高原町立病院の取扱いについて、8月12日から9月29日までの間4回にわたり病院の存続等について協議を行ってまいりました。

最初に、町立病院の設立から現在までの経緯を簡単に説明させていただきます。高原町立病院が開設されましたのは昭和25年でございます。宮崎県内の市町村立病院では串間市民病院に次ぐ歴史を有する公立病院でございます。昭和25年と申しますと、日本は戦後の混乱期にあり、依然として結核が死因の第1位でございます。伝染病も頻発し、平均寿命がやっと60歳を超えた時期でございます。高原町立病院設立以来60年近くにわたり、地域医療の拠点として地域住民の健康保持のため貢献してまいったところでございます。

このような経緯を経まして、町立病院は施設の老朽化に対応し、またさらに充実した医療サービスを提供するため、平成17年度から3カ年の継続事業により病院建物の改築を終え、平成19年3月1日から新館にて事業を開始し、1年と7カ月が経過しております。

診療体制といたしましては、救急医療、慢性期医療、夜間診療、在宅医療等の医療ニーズに応え、また人間ドック事業におきましても現院長が就任された翌年でございます平成元年度より開始し、現在定着し、西諸医療圏域の予防医療の一翼を担っているところでございます。

私は、昨年10月から11月にかけて開催いたしました合併住民説明会におきまして、19日間20会場において、町立病院の取扱いについて説明をいたしました。

まず、小林市民病院と町立病院は機能分担がされており、市民病院改築後も2つの病院の医療連携で地域医療の確保に邁進できること。

2つ、西諸医療圏における入院ベッドの許可数が、高原町が最も少なく、町立病院がなくなるようなこととなりますと、さらに減少し17床だけになること。1つの市に2つの公立病院が存在することは法的にも許されていること等を説明し、合併協議会では町立病院の存続を強く要望していくことを約束させていただきました。

私の説明に対し、住民説明会に出席された町民の方々からは、合併後、町立病院は存続できなくなるのではないかと、合併後の西諸地域の医療体制はどのようになるのか、合併後も院長先生は町立病院に残ってくださるのか、町立病院は診療所になるのかなどの町立病院の存続を強く要望するご意見、ご希望が多く出されたところでございます。

<p>会長</p> <p>松元委員</p>	<p>このようなことから、私は合併協議に臨む町長の姿勢としまして、また町民の負託を受け町立病院は現行体制のまま、いわゆる公立病院で新市に引き継いでいただくことを、合併協議における首長会、幹事会の中で再三にわたりお願いをいたしておるところでございます。</p> <p>これまでに、8月12日から10月9日にかけて4回の首長会、幹事会が開催されましたが、小林市長さんの見解としては、町立病院の現行の規模と体制を維持することと、西諸地域の医療体制を考えた場合、町立病院は現院長による法人を指定管理者とする指定管理者制度を導入されたほうがよいと考えるとの意見が出されており、これまで調整に苦慮いたしておるところでございます。</p> <p>このようなことを踏まえまして、私は町立病院事業の取扱いにつきましては、町民の皆様これまで協議の経緯やこれからの方針について十分にご理解をいただくために、10月10日より高原町内における各小学校区ごとに説明会を実施いたし、10月21日、回答をさせていただき予定といたしております。</p> <p>以上でございます。</p> <p>小林市並びに高原町の見解を今説明をしたわけでありますが、ただいま報告いたしましたことについて何かご質疑があればお出してください。松元さん。</p> <p>小林市の松元です。大変厳しい困難な問題に今直面しているわけですが、実は夕べ、奇しくも私のうちには高原町の方がご夫婦でおいでになりまして、一体全体指定管理者制度って何だと。俺たちは今、日高町長が報告されたとおり、高原の町立病院をそのまま残してほしいんだと、こういうお話を縷々されました。3時間ほどおられたんですけども、その間、また高原町の職員の方から抗議の電話がありました。何であんたはおれたちの町立の病院を指定管理者にするんだ。職員を首切るのかと、いきなりこう言われたもんですから、何をおっしゃっているんですかと、もうそこまで話が私は、町内では進んでいるのかなと思ったんです。</p> <p>私は思ったんですけども、1つの市に2つの病院を経営を維持していくというのは、私は極めて困難だと、私は思います。じゃ、その中でどんなふうに病院を体制を整えるのかと、これは極めてまた厳しい問題です。一方では、県の医療計画も4月に見直しがありました。7つの圏域を部分的には4つに集約です。特に私ども小林市が抱えています、あるいは西諸のと言ったほうがいいと思いますけれども、小児救急、周産期医療、これは都城に集約していくよと、こういうことになっているわけです。ほんとに西諸の全体の医療体制、関係者の意見がほんとに集約された計画に私はなっていないと思っているんです。勝手に、失礼ですけども、県はそういう計画を立てておられます。</p> <p>そういう将来的な問題もいろいろ加味して考えていきますと、それぞれが、高原町立病院が、日高町長がおっしゃるとおり、今日まで25年からずっと営々として経営されてきた経緯（「25年じゃない。昭和25年から」と呼ぶ者あり）昭和25年からですね、はい。</p> <p>で、あと小林が西諸の中核病院としての性格を帯びていろいろやってきた。それぞれがやっぱりそれぞれの役割を私は果たしてきたと思っているんです。</p> <p>ただ、私は、夕べ来られた方が、指定管理者制度そのものを中身がよくわからないと、実はこうこうこういう形態ですよ、一部適用とかあるいは公立病院の全部適用とか、そういう問題を全部ひっくるめて私は3時間いろいろお話をしたんですけども、そしてもう一つは、やっぱり決定的には、将来予測の中で、財政ですね、これはもう先般財政シミュレーションも出されていますけれども、やっぱりそういう将来的な厳しい財政状況をやっぱり根底に据えた議論というのが私はないと、一つ病院だけ別個の扱いということにはならないだろうと私は思うんです。</p> <p>そういった意味で、日高町長にお聞きしたいのは、住民説明会をされるということなんですけれども、私も文書をいただいているんですが、高原町の方が夕べ持ってこられましたので。</p> <p>この中で、説明会のこの町民の皆さんに対する案内文書の中で、要するに指定管</p>
-----------------------	---

<p>日高高原町長</p>	<p>理者そのものがもうだめなんだというお考えのようなんですけれども、全くもうこれ選択肢はないのか、そのことを町長にはお聞きをしたいなど。はなっからもうこの文書を見ますと、こう書いていますね。最後のところ、「しかしながら指定管理者制度の導入には移管先、指定管理者の決定条件に関する事項や病院移管に伴う事務処理等の多くの課題があるため、現時点においては非常に困難である」と、こうおっしゃっているんです。そういう考えのもとに住民説明会をされるということなんですけれども、そうなりますと、もうはなっから説明会というのが、ある面ではもう結論じみた形になってしまう危険性はないのか、そのことを私は少し心配するんですが、どういうふうにお考えか。</p> <p>松元委員さんのご質問にお答えいたしたいと思います。</p> <p>私、指定管理者制度というのは将来的には、当然いろんな形で、いろんな分野において導入されるべき制度であるというふうには認識をいたしております。ただし、現時点におきましては、いわゆるお医者さんの確保ということにつきまして、医師の偏在、そしてまた地方へのお医者さんが行きにくい状況というのが現在あるところですよ。</p> <p>そういう中で、高原町立病院といたしましては、これまで現院長先生を中心に、そしてまた鹿児島大学医局との長いお付き合いの中で医師確保がなされてきておるところです。そして、現在の医局における医師の派遣システムということをお考えましたときに、やはり長い間に培われた、構築された医局と公の病院との深い絆があるという、医療体制であるという、派遣体制であるというふうには認識をいたしておるところです。</p> <p>そういう中で、指定管理者となりますと、民間、民営になります。公立病院でなくなるということがございます。そういう位置づけの中で鹿大医局及び現在の派遣システムというのはやはり地域医療の実情に鑑み、そしてその地域の困窮性に鑑みて医局の派遣が、公立病院を優先に派遣されておる現在のシステムであるというふうには認識をいたしておるところでございます。</p> <p>そういう中で、指定管理者制度となりますと、公の病院の次のランクに位置され、医師の確保ということに非常に将来的な不安、危機感を覚えます。そしてまた、指定管理者制度におきまして、現在のお医者さん方が残ってくださるかということについても、私、正直言って不安、危機感を覚えます。そのような体制からおきまして、高原町民が、そして高原町立病院を利用されております高原町外の皆様方の医療ニーズに応えるためにも、現在の公立病院で存続をさせていただき、将来においてはいろんな制度の中での検討が求められるというふうには考えております。</p> <p>以上です。</p>
<p>松元委員</p>	<p>ついでにというわけではありませんけれども、長瀬町長にお尋ねしいんですけれども、野尻町の見解というのは2、3行しか書いてないんですけれども、見解というよりも私は感想的なことしか書いてないと思っているんです。要は、3市町で合併していこうとして今日まで協議を積み重ねてきたわけでなんですけれども、ぽんと中に入っていて、調整役といいますか、そういうのはできないんですか。</p>
<p>長瀬野尻町長</p>	<p>確かに野尻町には公立病院がございませんので、割と突っ込んだ意見を述べることができる立場にあると思っております。</p> <p>ただ、小林の市長さんから、西諸全体医療の問題、お聞きしますと、なるほどそうなのかなど。これがもしおっしゃいます、心配されるようなこととなりますと、西諸全体の現在の医療体制が崩れることになるわけでございますから、これまた非常に心配でございます。</p> <p>一方では、高原町長さんの今、いろいろ説明があったとおり、民間の病院が非常に少ない。ベッド数も17床しかない。そういう中で現在の町立病院が指定管理者制度になった場合に、果たして今の体制が維持できるのかどうか、多くの町民の方々が心配されるというお話を聞きますと、これでまたそうなのかなど、非常にこれ私、正直言って悩んでおります。</p>

<p>会長 小島委員</p>	<p>ただ、そういう中でも、やはり西諸全体の医療体制が、これは崩壊するということは、非常にこれ大きな問題でございますので、市長さんのおっしゃることも十分私は理解しているところでございまして、ただそういう中で、過去4回の首長レベルの会議があったわけでございますが、なかなか野尻町の立場として仲介というか、非常に大きな問題でございますので、そこまで介入できないものがあるというのが現状でございます。</p> <p>ほかにありますか。小島さん。</p> <p>小林の小島です。この病院問題は、もう前回のときも話が出て、将来的には診療所方式とかそういう形になるのではないかなという前町長時代も話が出た経緯もあるわけですがけれども、今のお二人の方の意見を聞いていると、それぞれ鹿大と協議をしたわけですよ。そこら辺をもうちょっと煮詰めてもらわないと。高原町長さんは医師の確保の問題を非常に不安視されている。小林市側は鹿大と協議をしてこれを存続、そのままいくのであれば指定管理者制度しかないというのを鹿大と協議をしていらっしゃるわけですよ。この辺をもうちょっと煮詰めてもらうというふうには思います。</p> <p>そこで、高原町が明日から説明会でありますので、日高町長にお願いなんです。聞くとところによると、高原町民は高原の将来の財政のあり方を、説明を受けてないんだという話を聞きます。であるならば、将来、例えば単独でいった場合の財政状況はこうあったから合併をすることになったんだということをも説明しないと、前回、町民の動きで、広原が分村するんじゃないかという動きがあったんです。僕らも非常に心配しましたが。そこら辺も含めて、合併の意義、この辺もう一回かみ砕いて住民説明をしていただきたいなと思うのが1点。それと、そういう財政状況、そして高原町立病院の将来にわたっての財政状況、こういうことも含めて、町民が理解をした中での合併でしょうから、そこら辺を説明していただくようお願いをしておきます。10月21日ですか、そこに回答を持ってくるちゅうことですから、できればいい方向でこの合併が進むことを願っております。</p> <p>それとまた、合併を進めながら、合併期日にあと一年ぐらい余裕がありますので、ここでも調整あるいは研究する時間はあるのではなからうかと、合併をして。その辺も含めて、議会とも十分協議しながら前向きに、そして合併が成功する方向でぜひ住民を説得もしなきゃならないと思いますが、そういう状況で説明会に臨んでいただきたいなというふうに思います。</p>
<p>会長 日高高原町長</p>	<p>はい、どうぞ。</p> <p>小島委員さんのご質問、そして明日からの住民説明会に臨む要望ということで承ったところでございます。</p> <p>財政状況につきましては、いずれも今1,700有余の自治体、全国、国のあり方、そして少子高齢化の急速な進展、人口減少、そういうものを含めて1,700自治体余、どこも厳しいものがあるというふうに認識をいたしております。</p> <p>そういう中で、高原町としての財政状況をお話しするべきじゃないかということでございますが、今回は特に合併協議における公立病院のあり方についての調整が難航しておるということでございますので、そのことを重点的に説明を申し上げたいというふうに考えております。</p> <p>あわせて、現在、まちづくり小委員会の中で新市まちづくり計画の中で財政シミュレーションと合併における場合の財政投資余力、合併しなかった場合の財政投資余力等について同じ物差しでシミュレーションができたところでございます。そしてあわせて、高原町は住民説明会におきましての、いわゆる高原町の説明会を、資料をもって説明いたしました。そしてまた、10月1日に宮崎県が公表いたしました各市町村、自治体におけるそれぞれの財政状況等について公表があったところでございます。</p> <p>それらを踏まえまして、まず町立病院問題を重点にお話しさせていただきます</p>

が、町民の皆様からのご質問には、現時点で答えられる直近のお話をできるようにしたいというふうに考えておるところです。基本的には、小委員会で出されました財政シミュレーションが基本になるのではないかなというふうに考えております。

それと合併のあり方についてでございますが、私も今後の西諸地域の発展というようなことの中では、住民説明会においてスケールメリットを生かした、そして地方分権の推進の中であるべき姿、西諸が埋没しないように、地盤沈下しないように、そして共通の課題にどう立ち向かっていけるのか、そしてお互いの創意工夫の中で知恵を出し合って新しいまちづくりをしなきゃならないというふうに考えて住民説明会を行ってまいりました。

しかし、高原町において町民の要望が町立病院をまず守っていただきたい、そういう中での1つの要望でございます。高原町の切なる要望です。そして私は、1万300人の町民の負託を受け、そしてその負託に対して私は合併協議会に臨んでおりますので、それらのことは十分、町民に私はお答えをしながら、そして説明会を再度開くことによってそういう町民の負託に対してどう対処すべきか考えてまいりたいというふうに考えております。

それと、町立病院でございますが、17年度、18年度継続事業で完成をいたし、まだ1年半でございます。その改築に当たりましては、公営企業債申請時、いわゆる病院をつくるとき、13億3,000万ぐらいかかっております。そして11億4,500万の公営企業債を借りて病院はでき上がりました。これは町民が長年待望いたしておりましたし、議会の皆様方のご理解をいただいて今の病院が改築できました。そういう公営企業債申請時における病院事業収支実績及び計画表に基づいて借入起債が決定をされたところでございます。

そういう中で現在、高原町立病院は、計画に基づいて、計画どおりの進捗をいたしております。外来患者、入院患者、医業収益、そういうものもございまして。そして今は、平成19年度決算におきますと、仮病棟等改築時の仮病棟等の固定資産等の償却という観点から、非常に赤字決算となっておりますところでございますが、5年後においては黒字ができるという状況で現在進捗をいたしております。そういうことで、高原町立病院については改築が、町民の望むところで、議会のご理解をいただいて、今1年半余が過ぎたということをご理解いただきたいと思います。

以上です。

小島さん。

町長さんの心境は大変だろうというふうに思います。聞くところによると、田中真紀子さんじゃないですけど、前に行きたいんだけどスカートを踏んでいる人がいると、こういうことも何か聞こえてくるような感じもしないでもないです。

そこで、やっぱりこころは今度は県が中立な立場で、合併を推進するために、あるいはこの病院を解決するためにアドバイスをしていただきたいなというふうにも思っておりますので、その辺もよろしくお願ひし、質問を終わります。

ほかにありませんか。はい、どうぞ。赤崎さん。

赤崎です。全国的な話題の中で、公立病院の7割以上が現在病院経営、運営上の赤字問題を抱えて、耐えて問題解決に鋭意努力されている実態が報道されております。したがって、小林市、高原の2つの病院においても、そういった現状の中で小林市の新しい病院の竣工に向けて、ガイドラインを中心にしながら鋭意ご努力いただいているところ、具体的には運営効率化に向けてのネットワークの問題、経営計画の問題、医師の確保問題等々について市長自らご努力いただいている状況を耳にしております。もちろん高原の場合もそうだろうと思ひますし、そういった中で両者が相まって共通の問題解決に向けて鋭意努力しながら、合併という大きな方向に足を進めなきゃいかんのだろうと、こういうふうに考えております。したがって、そのことについてそういう趣旨でぜひ受けとめていただくということがまず第1点。

会長
小島委員

会長
赤崎委員

<p>会長</p>	<p>あと焦点を絞って高原町長さんに質問させていただきますことは、小林病院の給与体系と高原町の給与体系、特に専門医職等についての類する給与体系、この実態格差があまりにもひどい。これは先ほどの新聞紙上の報道でしか僕は情報を持っておりません。あれを素直に受けとめたときに、実態差があまりに大き過ぎると。片や小林市の給与体系等については、県病院等々の給与体系とほぼ前後する形での状況があるということも僕の情報として耳に入っているわけですが、高原の現在の給与体系がどのような背景の中で現在に至ってきたのか、その辺については住民にもその辺の格差の実態等についての説明とその背景、そして今後どうあるべきか、絡めて合併問題をこういう方向で考えて受けとめながら進んでいくんだと。町民の皆様いかがでしょうか、その辺の問題提起、努力の姿等々について対応されているのかどうなのか、ぜひかみ砕きながらご案内いただきたい。</p> <p>以上です。</p> <p>全国的な問題について、私は宮崎県の公立病院の開設者協議会の会長を私はいたしておりますので、毎年全国大会に出場、出会しておりますけれども、先生おっしゃったように、約公立病院が1,000ぐらいあります。1,000幾つかあるんですが、その7割は赤字を抱えているということを言われておりますし、現実には7,000億から8,000億ぐらいの赤字のときは私知っておりましたけれども、全体で。それをオーバーしているという話も聞いておるんですが、確かに公立病院の置かれている立場は難しい問題があります。利益を追求するだけではなくて、不採算部門、つまり採算がとれないけれども市民なり住民のために医療体制は整えなきゃいけないというようなことから、不採算部門を公立病院は抱えます。したがって、赤字を抱えている病院が7割から8割と言われているこの現状を何とかしなきゃいけないというふうには思っております。</p> <p>私のところの病院の件費は60%であります。公立病院で50%を超すと赤字になるはずだということをよく言われるんですが、高原町立病院さんは——これは間違っていたら訂正してください。70%ぐらいだというふうには伺っております。したがって、やはり自治体を経営をする——病院も大事でありますけれども、自治体を経営するということになりますと、やはり人件費の抑制等については、考えていかなければいけない問題も出てまいりますので、市民が喜ぶから余計給料を払うということはちょっと私は、ちょっと小林の場合は考えられませんので、県病院とは同等あるいは少し多いかもしれません、私のところ。そういう状況でございます。ただ、高原病院のことにつきましては私よくわかりませんので、町長さんからお聞かせいただきたい。</p>
<p>日高高原町長</p>	<p>赤崎委員さんのご質問にお答えいたします。</p> <p>いわゆるお医者さんの給与、医師給与については、これは長年、歴代の町長、そして鹿児島大学医局との、派遣に基づいて紳士的に調整をされ、医師給与が決定をいたしております。これはいわゆる医師資格取得年数、それらを加味しながら、そして医師招聘のために、そして鹿大医局のほうからこの条件ならいいですよという形の中で給与が決定され派遣をいただいております。</p> <p>そして現在、医師が不足しておるという問題について、そして一番世の中でハードな部門であるということの中で、医師給与と処遇の改善、それについてはやはり多くの課題解決の中で処遇をよくすることは大事なことだというふうには考えておるところです。</p> <p>ですから、私は、数字で新聞に出ましたけれども、ほんとに一つのお医者さんの給与が新聞に報道されたということでちょっと悩みました。しかし、高原町の給与体系につきましては、現在のお医者さんがその勤務の中で当然必要という額を町長が決定し、それを尊重し給与ができておるというふうには考えております。</p> <p>今後、医師確保については必ず処遇の改善というものが全国的に求められていくものというふうには考えておるところです。</p> <p>以上です。</p>

<p>会長</p>	<p>あと、いわゆる給与費につきましては、今病院事務長から参りましたけれども、高原町は56.2%、平成19年度病院事業会計実績、平成19年度職員給与費対医業収益比率56.2%でございますので、そのように報告させていただきます。</p> <p>先ほど私申し上げたことは訂正をさせていただきます。町長さんのおっしゃるとおりだと思います。</p>
<p>中屋敷委員</p>	<p>ほかにありませんか。はい、中屋敷さん。</p> <p>地方自治体の公立病院経営というのは非常に厳しい状況に置かれているというのはもう今一般的な常識でございます。アメリカの株相場が大暴落しました。特に、低所得者層に対する貸付けですね、融資がもう焦げつきが160兆も幾らもと言われておりますが、昨日、経団連の会長も、この影響は地方自治体に直接来ると。それで選挙を延ばさなけりゃ、もうこれは大変なことだということをおっしゃっていましたが、私たちは今年、大分に研修に参りました。それぞれ首長さんは研修に行かれた方から聞かれていますと思いますけど、大分市の公立病院の取扱いについては、佐賀関町が人口1万2,000です。あそこは合併協議会を立ち上げる前に、もう既に大事なことはすべて話し合いを決めているわけです。公立病院を民間に委託してあそこは合併をいたしております。そして今、この前の説明会では、副院長があとを引き受けて、報酬を2割から3割に下げて今黒字経営だということの報告を受けておるわけでございます。特に銚子市、千葉県の。あそこは空中分解しました。それは何かというと、人件費が一番大きな比重を占めていたというのが大きな原因であるわけでございます。</p> <p>そういうことを考えますと、今後、高齢化が進みます。高齢化が進むと福祉関係、いろいろ関係の予算が増額して、収入は少なくなっていく。そういうことも十分加味して、今回のこの公立問題は話し合っていかなければ、これは大変な状況に落ちてくるんじゃないかと私も心配いたしております。</p> <p>なぜ地方がこんなに医者への獲得に困難かということをお聞きいたしましたところ、都市部は高度な医療技術を持った医師、いわゆる指導者がいっぱいおるそうです。指導者の多いところには医師がどんどんいく。給料は安くてもいくそうです、勉強のために。ただ、地方はそういう高度な医療技術を持った指導者が少ないから、医師不足を来しているんだということも私は聞いております。</p> <p>今後、私は給料さえ上げれば医師はどんどん来るんだと、医師は獲得できるんだと、そういうことを私は今後は当てはまっていかなければと思っております。そういう点も十分加味しながら今後協議を前向きに進めていただければと考えております。</p> <p>今朝、私は日向市、日向市が今度合併しましたから、日向市の保健課に電話を入れて、どういう状況だったのかお聞きしましたところ、私は日向市はやっぱり病院を所有していると思ったんです。あそこは公立病院はありませんね。東郷町は社会保険東郷町町立病院を所有しとったわけです。どういうふうに合併したかと申しますと、そのまましましたと。ただ、3年以内に公営企業を適用するのか。協議会で整っておりますという返事が来たわけです。</p> <p>そういうことで、非常にこの病院経営というのは今後大きな、収入が少なくなっていく地方自治体は、これは人口減少を辿っている地方自治体はこれは大変な状況になっていくんじゃないかと思っております。そういうことも十分把握されまして、今後協議を進めていただきたいと思いますと考えております。</p>
<p>会長 日高高原町長</p>	<p>町長さん、どうぞ。</p> <p>ただいま中屋敷議長さんがおっしゃいました医師給与を上げればいいということではなくして、私は現高原町の医師給与は、これまでの長い間、鹿児島大学医局との調整の中で決定しております医師給与でございますので、そのことは現在働いていらっしゃるお医者さん等にも深く影響いたします。そして私は現在の医師給与を尊重いたしておりますので、その点をご理解のないようお願いを申し上げます。高原町の医師給与は長年培ってきた鹿児島大学医局との信頼関係の中で構築されている給与体系ということをご理解を賜りたいと思っております。</p>

<p>会長 首藤委員</p>	<p>以上です。 ほかにありませんか。はい、どうぞ。首藤さん。 小林の首藤です。先ほど高原町長のほうから、今までの経過をずっと聞かせていただきました。高原の住民の方は強く町立病院の維持を願っているということは十分伝わってきました。町長も病院現行維持の思いを受けて、幹事会、首長会でその都度維持をお願いしてきて、今回、9月ですか、小林市から指定管理者導入の検討を受けて住民説明会を行うということで、先ほど松元議員のほうからも、町長の真意はどうなんですかということでお尋ねになりましたけれども、小林側としての見解はもうこれしか言えないと思いますし、また、高原町としてもこういうふうにしていただきたいという見解ですね。これは私も十分わかります。それで、地域医療を守るために高原町長の果たす役割は何か。何だと思えますか。答えはわかっていると思うんですけども。 それと、そういう観点から、医師不足問題が言われているんですけど、宮大のほうも5名、来年度から定員を増やしていくと。全国では150名増やす。過去最大規模の政府の骨太方針が出ているんです。だから、今は苦しいけれど、やりくりをすれば5、6年経ったときに医師不足というのは解消できるという方向も、だから先を見た、今医師がないからどうこうじゃなくて、先を見据えて、今の町立病院をどうしていけばいいか、住民の一番負託の多い、そして要望の多い、住民にとっては地域の宝である町立病院ですね。そういうことを踏まえて、やはり今後は十分考えていっていただきたいなど。私は、小林からもたくさんの方が行っていらっしゃるし、診療に。やはり地域医療は守るべきだという立場にあります。だから、合併ということで病院問題がすごくネックになっているんですけども、そういう観点からも、やはり十分熟知して、考えてやって、地域医療のためにやっていただきたいと、私はそのように考えています。 高原町立病院の経営状況を聞きにいったんですけども、病院を改築しましたけれども、欠損金もそれほど多くありませんし、流動比率とか現金比率もクリアしていますので、黒字に5年ぐらいで転換するんじゃないかなと思いました。だからそういうところも含めて、やはり病院問題のあり方をこういう角度からも十分に検討していただきたいと私は思っております。</p>
<p>会長 日高高原町長</p>	<p>はい、どうぞ。 首藤委員さんの2つの質問でございますが、まず、高原町の地域医療の考え方でございますけれども、先ほどから、そして合併協議が始まりまして分科会、専門部会等でもお話しさせていただいています。高原町はほんとに民間病院の少ない、1万300人の人口を有しておりますが、民間病院がほんとに少ない地域です。そして、先ほど申しあげました昭和25年12月1日開設以来63年余にわたって町民の生命、身体、命を守ってまいりました。そしてその強い思いの中で病院改築がなされたところでございます。 そして、私自身、今後、高原町民が、また人が定住してくれるために町立病院という存在を現行のまま残しながら、将来的には将来のあり方を工夫研究していかなきゃいけない時代がもう来ておると思っております。だけど、現在は現行のまま新市に引き継いでいただいて、町民が安心して暮らせる地域医療を担っている高原町立病院の存在、存続を強く願う町民の負託に応えなければならないということがございます。そして、将来とも、形は変わっても町立病院という現行規模の形のような形で残すことが今私たちの使命、責任であるというふうに考えております。 その目的のために町立病院が改築をされました。そして、今後やはり、1万人の命と、そして町立病院を信頼して来てくださる患者様のために、さらにその負託に応えなきゃならないというふうに考えております。そして、将来の医師不足解消という点については、今それぞれの全国的に、また各県で地元からの推薦制度とかいろいろんな形で医師確保のために懸命に施策が講じられておりますので、それらが功を奏するのが恐らく8年、10年後だと思うんですけども、そのような形で将来医師</p>

<p>会長</p>	<p>の偏在、不足が解消されることを考えております。望んでおりますし、やはり行政がそういうことについてはさらなる支援をしていかなきゃならないという立場にあるものと思っております。</p> <p>以上です。</p> <p>ちょっと私先ほど申し上げたことの中につけ加えさせていただきますが、医師給料につきまして、先生あたりの給与についてのことで、私は決して高原町の院長先生の給料を下げろということを言っているんじゃないんです。そういう気持ちはありません。鹿児島大学に行きましたときも、鹿児島大学側は、長年の院長先生のご努力でここまで来たんだから、私どもも医師給、高原の院長の医師の給料を下げるということは同意しかねるというふうに鹿児島大学もおっしゃいました。私は、それはもちろんお考えもありましようから受けて帰ったんですが、それであれば、公立病院として給与表を2枚つくらなきゃいけないという結果になっては大変なことになるので、指定管理者制度で給与をそのままに、現行体制でおやりいただけるのではないかと。これは鹿児島大学の医局との共通認識であります、私ども。したがって私それを申し上げたんですが、院長先生の給与を下げてほしいということは、私は言うておりません。ただ、今の現状を比較するとこうだということは申し上げました。</p> <p>ですから、そのままの体制を残すとすれば指定管理者制度しかないんじゃないかということをお私強く申し上げておるわけであります。</p>
<p>首藤委員</p>	<p>発言ありますか。それじゃ、どうぞ。首藤さん。</p> <p>今市長がおっしゃいましたように、町立病院のあり方としてはやはりそういうふうに考えていくべきだと思いますけれど、小林側としてはもう指定管理者という以外にありませんので、そこら辺は自ずと考えが決まってくるのかなと思います。もっと町立病院を充実して、地域医療の拡充をしていただきたいなと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>ちょっとここで、1時間ちょっと過ぎましたので休憩をさせていただきます。11時20分から再開をさせていただきます。休憩に入ります。</p>
<p>会長</p>	<p>午前11時10分休憩～午前11時20分再開</p>
<p>会長</p>	<p>お席にお着きください。——よろしいですか。そちら……。——おそろいですね。</p> <p>それじゃ、休憩前に引き続き会議を開きます。</p> <p>まだご質問もあろうと思いますけれども、ご質問をお受けしますが、ただこの病院問題につきましては、明日から高原町さんは住民説明会をされるわけでありまして、その結論が21日の首長、幹事に結論をお持ちいただくということになっております。したがって、そこでもうはっきりしてくると思いますので、今日は、午前中はこの病院問題でご質問、あと1つか2つあると思いますが、あればお出しただいて、午後からは用意をいたしております協議をさせていただきたいと思ます。そのようにご理解ください。</p>
<p>松元委員</p>	<p>それでは、はい、松元さん。</p> <p>小林の松元です。あと一点だけ日高町長さんにお聞きしたいんですけれども、私どもの小林、議会では、縷々これまで、高原町さんもいろいろ検討されて17年、18年に改築されたわけなんですけれども、私どもも病院の調査特別委員会とか議会ではつくりながら、どういう経営形態がいいのかとかいろいろを調査もしたりして、議会でも質問があったりします。その度に病院長も呼んで、直接の経営者である病院長にもいろいろ呼んで、出席を求めて議論をやってきております、今日まで。</p> <p>私はそういうことで、ちょっとお伺いしたいのは、そういう指定管理者という今の町立病院をそのまま存続させたいということであれば、一つの選択肢として指定管理者制度もありますわなと、こういうことなんです。それについて、頭からだめというんじゃないなくて、もっと病院長を含めて、そういう施設管理者である町長さ</p>

<p>会長 日高高原町長</p>	<p>ん、それから経営の直接責任者である病院長、こことのお話し合い、あるいは議会も含めてのそういう議論というのがされているのかどうかということだけちょっとお伺いしたいと思います。</p> <p>どうぞ。</p> <p>松元委員さんからございましたが、私、病院長さんとは再三再四お話をいたしております。そして新聞に載りましたこと等も含め、その都度診療の合間に話をさせていただいておりますし、夕方話をさせていただいて、すべてのことについて病院長は内容は熟知されております。</p>
<p>会長 久保田委員</p>	<p>以上です。</p> <p>よろしゅうございますか。ほかにありませんか。どうぞ、久保田さん。</p> <p>久保田でございます。答弁は必要ないと思いますが、今町長さんのお話を聞きまして、私は私なりに、小林の市民の思いというのでも聞いていただきたいなというふうに思います。市民病院もご承知のとおり、50数億かけて改築に入っております。その中で、高原の病院の問題とで、まず市民が一番心配するのは、小林の病院は今でも医者が足らんと。だけど、これがうまくいかんかったら市民病院の医者が引き上げられたから病院はいけんとなつとか、非常に市民も今心配しているわけです。ですから、やはり町長さんが町民の声を大事にされるのはよくわかりますから理解はするわけですけど、私たちにも4万の市民が後ろについておって、いろんなことを言うてくるわけです。</p> <p>だから、やっぱり病院というのは一番市民にとっては命を預けるところですので関心が高いわけですが、小児科もまだ足りない、産婦人科をしてもまだ医者が足りないというような状態の中で改築に入っておりますので、そこら辺もやっぱり一応踏まえていただいて、本当に合併をするために来られたというふうに私たちは受けて今まで協議を続けてきました。ですから、この病院問題だけでこれがおかしくなると前と同じようなことになるということだけは、ぜひ避けていただけるように最善の努力はしていただきたいというふうにお願いを申し上げておきます。</p>
<p>会長 西道委員</p>	<p>以上です。</p> <p>答弁は要りますか。どうぞ。西道さん。</p> <p>小林の西道です。先ほどの松元委員の質問に関連してでございますが、日高町長さんは院長と十分協議をされているという答弁をされていたようでございますが、院長さんの指定管理者に対するお考えというものはどういうものか、お聞きしたいと思いますが。</p>
<p>日高高原町長</p>	<p>まず、院長先生とは十分お話を常にさせていただいております。やはり今の体制で地域医療を守りたいという考え方でいらっしゃいます。そのようにご理解いただきたいと思います。</p> <p>それと、私自身、久保田市議さんからもございました。どちらの病院も必要だということでございますので、そのことは十分ご理解いただきたいと思います。私も、やはり高原地域、地区がどう残っていくのかということもやはり病院が核になるという考え方を現時点で持っているところでございます。病院に対する思いは一緒でございます。</p>
<p>会長 前原委員</p>	<p>以上です。</p> <p>ほかにありませんか。はい、どうぞ。前原さん。</p> <p>高原の前原です。両市町ともに住民の願いはやはり自分たちの病院を守りたいというのは同じ考えだと思っておりますが、高原町民の多くが町立病院を守ってほしいというのは事実ですし、別な考え方として、この町立病院問題で合併を壊していいのかという考えの方も多数おられます。</p> <p>そこで、私もこの合併は何としても成功させたい、させなければいけないというふうに考えております。この病院問題でほんとにこの合併を壊していいのか、そういう気持ちでおりますし、私が最近町内を回ったところ、やはり合併は壊してほしくないという意見も多数聞いておりますので、ここで提案なんですけど、21日の首</p>

<p>会長</p>	<p>長会で日高町長が答弁をされるということで、その結果如何でこの合併がどうなるのかということに決まりかねないというふうに思うんです。であれば大変なことになるので、協議そのものをもう少し延長できないのか、じっくりお互いに協議していけば必ず解決方法はあると思うんですよ。そこの検討をもう少ししていただきたいと。</p> <p>事務的にはかなり厳しいというふうには伺っておりますけれども、法定協を立ち上げて1年ぐらいで合併した自治体もありますし、やろうと思えばできると思います。まだもう少し時間をかけていただいて、本当にこれでいいんだという方向を前向きな方向で見出していくという検討をぜひしていただきたいというふうに思います。</p> <p>以上です。</p> <p>スケジュールにつきましては、ちょっと私よりも事務局が今どこまで進めているか、後のこと等がありましようから、事務局からちょっと説明させていただきます。事務局。</p>
<p>局長</p>	<p>事務局長の倉園でございます。当初のスケジュールでまいりますと、11月の28日、ここで合併協定書調印式というのを計画しておりました。ですから、この問題に関してもう少し時間がとれないかということで事務局のほうで今スケジュール調整をしまして、限界として延ばせるのが1カ月でしょうと。なぜかという、これは実際の統合作業に入る前に、最低、私としては統合の準備作業に3カ月、要するにプロジェクトからスケジュール管理までのものを完成させるに3カ月と見ております。実際の統合作業完了までには1年。それで、その中の統合作業のスケジュールリングのほうで1カ月、3カ月見ていましたところを2カ月、ぎりぎり削って2カ月は何とか確保できるでしょうと。ただし、留保条件がつきまして、その場合は、これは当然協議会が全部協定項目について協議が終わり、協定書を取り交わした上で議決というのを経て、初めて廃置分合という形になりますので、実際の廃置分合議案の議決、事務委託の議決、そして20年度予算、21年度予算の議決というのをいただけないと実際の作業には入れないということを鑑みまして、最高で1カ月、正確に申せば24日なんですけれども、そこぐらいまでには何とか、議会の方にも臨時議会とかそういうのを招集していく必要があると思いますので、ご迷惑はかけるとは思いますけれども、各課、財政担当、それについても予算がそこまで全部そろわないと全体的なものではできないということで、調整して——議会とはまだ調整しておりませんが、内部調整では最高24日、後に延ばすことは可能です、現状では。ということでございます。</p> <p>以上です。</p>
<p>会長 前原委員</p>	<p>どうぞ、前原さん。</p> <p>24日程度であれば延ばせるということですので、ぜひ最大限延ばしていただいて、真摯に協議をしていただきたいというふうに思います。</p> <p>我々、今の財政状況、国、県の状況、今先ほど小林の委員さんからもありましたように世界的な状況で経済が非常に冷え込んできているということ等を考えていくと、今の状態で考えると、そこ4、5年先は何とかやっていけるということもありますけれども、将来、少子高齢化、10年後には県でも35%を超える高齢化率になるという状況も踏まえて、我々の子供、孫に禍根を残さないというためには、この合併をぜひ成し遂げないといけないというふうに思いますので、ぜひ延長をしていただいて、この合併の真の姿を出せるように努力をしていただきたいというふうに思います。</p> <p>以上です。</p>
<p>会長</p>	<p>スケジュールにつきましては、一応首長、幹事会等で、21日までにはぜひ結論を導き出してほしいということはお互いに了解の上で別れたわけですが、日にちを延ばせば結論がよくなるのかとか、あるいははっきりしたのが見えてくるのかというんであればその程度、24日が限界のようですが延ばしてもいいと思</p>

	<p>ますけれども、できるだけ私お願いをしたいんですが、次のスケジュール等ほかの問題がいろいろ出てまいりましょうから、高原町さんをお願いをしたいんですが、21日までにひとつ、できましたら結論をお出しいただきたいというふうに私は思います。</p> <p>しかし、前原さんおっしゃるように、延ばせるとしてもそのくらいしか延ばせないわけですから、その点をご理解をいただきたいと思います。</p> <p>それと、私は先ほど鹿児島大学に行ったときの状況をもう少し付け加えるべきであったと思いますが、鹿児島大学の第1外科から先生方はおいでになっていらっしゃいます。今、鹿児島大学の第1外科というのは教授不在であります。今回、鹿児島大学から聞いたんですが、その第1外科の中を4つの部門に区切りたいといいますが、研究科目を4つにまた新しくつくりたいので、どうしても医者が足りないんだと。ですから、外に出ている医者を引き上げざるを得ないという状況になっていきますと。</p> <p>宮崎県まで私どものところは医者を派遣しているというのは、どうも納得がいかないような話もちらっとされましたけど、しかしこれは歴史的なことがあります。宮崎大学がないときから鹿児島大学がおいでいただいているんですからそのことはもうお分かりなんですけど、ただ、宮崎県に医大ができた以上は、私どもは鹿児島県の病院をカバーするのにも医者が足りないんですけれども、宮崎県までカバーしなきゃいけないのは大変ですと。</p> <p>ただ、医師を引き上げる対象区域に西諸が入っていることだけは事実ですとおっしゃったんです。ですから、今高原に2人、小林に3人、えびのに2人、7人の外科の医者が来ております、鹿大から。しかし、その中で、もしどこかが引き上げられるとすれば、その病院はちょっと困られるんじゃないかというふうに私は思います。どことは言われませんでした。ただ、その対象区域に西諸も入っておりますということはおっしゃいました。ですけど……。ですから、そのことをちょっと付け加えさせていただきます。これは高原がどう、小林がどう、えびのがどうという問題ではありません。総体的な、その対象区域に入っているということだけはお聞きしました。</p> <p>以上、付け加えさせていただきます。</p> <p>それと、スケジュールの件で、先ほどの事務局の説明で補足させてくださいということですから、どうぞ、事務局。</p> <p>先ほどちょっと言葉が足りなかったところがあると思いますので、私が申し上げました約1カ月、24日の期間ずらせると言ったのは、調印式自体をそれだけ遅らせることができるということでございますので、その前には当然協議会で最終確認をしていただいてという手続とか諸手続がございますので、後ろにずらせる期間の24日間というのは、調印式自体を24日ということでございますので、ご理解をいただくようお願いいたします。</p> <p>以上です。</p>
局長	<p>お聞きのとおりですが、まだありますか、何か。</p>
会長	<p>〔「なし」と呼ぶ者あり〕</p>
会長	<p>なければ、一応この病院問題の報告事項はこれで終結をいたしまして、21日を待つということでひとつご理解いただいて、あとは協議事項が、協議事項第56号から66号まで、そして、先だって持ち帰りの協議事項ですけど、31号の1これがありますので、この協議に入らせていただきたいと思います。</p> <p>今日1日といいますか、4時頃までは時間が設定してあるんですけれども、大変であろうと思いますが、お昼も準備はしてありますので、あと20分ありますので、いけるところまで協議事項を進めさせていただきます。</p> <p>それでは、②の協議事項、協議第56号一般職の職員の身分の取扱いについてを議題にいたします。</p> <p>事務局より説明をしてください。</p>

<p>総務部会長</p>	<p>それでは、資料の4ページになりますけれども、協議第56号一般職の職員の身分の取扱いについてでございます。調整方針は5ページにあるところでございますけれども、資料の1-1の3ページをお開きを願いたいと思います。</p> <p>ここを見てもみますと、条例定数と実職員数が書いてございまして、小林、高原、野尻、それぞれの人数等が書いてございます。課題では、条例定数と実職員数との差があると。条例定数よりか相当実職員は少ないですよという状況が見られるということでございまして、これらを見直す必要があるというようなことでございます。</p> <p>それから11ページをお開きを願いたいと思います。ここは給料表ということになっております。小林、高原、野尻それぞれここに表がございましてけれども、給料表につきましては行政職あるいは医療職等でございますけれども、まずは課題としては高原町及び野尻町においては行政職給料表を全職種——高原町の医者は除いておりますけれども——を適用しておるが、小林市においては企業職及び技能労務職は個別の給料表を適用しておると。そしてまた、これを見てわかるように、給料表の級ですね。これが小林市においては7級ですが、高原町さんと野尻町さんにおかれましては6級というような形でございます。このような違いがあるというようなことでございます。</p> <p>これらから、資料の5ページに戻っていただきますけれども、協定項目第9号「一般職の職員の身分の取扱い」でございます。</p> <p>まず1番目として、高原町及び野尻町の一般職の職員はすべて新市の職員として引き継ぐ。また、合併時までには小林市の定数条例を見直すと。</p> <p>それから2番ですが、給料表については、合併時に小林市の給料表に統一（ただし、医療職給料表を除く。）し、高原町及び野尻町の職員の給料については、合併後に現給保障を基本に小林市の昇格基準に応じた制度に統一する。</p> <p>以上のような提案でございます。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>ただいまの説明いたしました協議第56号一般職の職員の身分の取扱いについて、何かご意見、ご質疑があればお出してください。——ありませんか。</p> <p>〔「なし」と呼ぶ者あり〕</p>
<p>会長</p>	<p>ご質疑もないようですので、お諮りいたします。協議第56号一般職の職員の身分の取扱いについては、原案のとおり確認することにご異議ありませんか。</p> <p>〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕</p>
<p>会長</p>	<p>ご異議なしと認めます。よって、協議第56号につきましては、原案のとおり確認することといたします。</p> <p>次に、協議第57号特別職の職員の身分の取扱いについてを議題といたします。総務部会より説明を願います。</p>
<p>総務部会長</p>	<p>それでは、引き続き協議第57号についてご説明を申し上げます。</p> <p>資料の7ページからでございますけれども、8ページのほうに提案事項が書いてございますが、資料のほうとしては現況調書1-1の26ページをお開きを願いたいと思います。ここは特別職の状況、任期等でございます。</p> <p>それから27ページ、給与とか手当、そのようなものが載っております。</p> <p>次に、31ページをお開きを願いたいと思います。ここは非常勤特別職の報酬の状況ということでございます。</p> <p>それから同じく33ページは、非常勤特別職の費用弁償の状況ということでございます。</p> <p>それから下のほうの34ページには特別職報酬等審議会の状況の現況でございます。</p> <p>これらから、8ページになりますけれども、協定項目第12号「特別職の職員の身分の取扱い（行政委員会を除く）」ということでございますが、まず1番目として高原町及び野尻町の常勤及び非常勤の特別職については、合併の前日をもって失</p>

	<p>職をするということでございます。</p> <p>それから2番として、非常勤特別職の報酬額について。(1)同種の附属機関等の委員については小林市の金額を基本とすると。それから(2)として、各市町における独自の附属機関等の委員でございますけれども、それぞれの委員の職に係る事務事業の対応方針に沿って協議・調整をするということ。(3)ですが、学校医、学校歯科医等についてですが、これにつきましては医師会等との調整により決定をするということ。</p> <p>それから3番、非常勤特別職の費用弁償については、小林市の制度等に統一する。</p> <p>それから4番、特別職報酬等審議会については、小林市の制度等に統一する。</p> <p>以上のような提案でございます。</p>
会長	<p>ありがとうございました。ただいま説明いたしました協議第57号特別職の職員の身分の取扱いにつきまして、何かご意見、ご質疑があればお出してください。</p> <p>〔「なし」と呼ぶ者あり〕</p>
会長	<p>ご意見、ご質疑がないようでありますので、お諮りいたします。協議第57号特別職の職員の身分の取扱いにつきましては、原案のとおり確認することにご異議ありませんか。</p> <p>〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕</p>
会長	<p>ご異議なしと認めます。よって、協議第57号につきましては、原案のとおり確認することといたします。</p>
企画財政部会長	<p>次に、協議第58号使用料、手数料等の取扱いについてを議題といたします。</p> <p>企画財政部会より説明を願います。</p> <p>企画財政部会です。ご説明をいたします。</p> <p>58号の使用料、手数料、これと60号の補助金、交付金等、これも一緒であるんですが、5つの専門部会がありまして、各専門部会にまたがった事案でございます。それを使用料、手数料と補助金、交付金等にまた、そういったくくりで提案をさせていただくということでございますが、ページでいきますと13ページに2つほど提案を挙げております。これにつきましては、各専門部会、それから分科会でそれぞれ審議をしてもらう前に、幹事会で確認をしまして、全体的な整合性をとる意味もありまして、こういったものを念頭に置いて協議に入ってくれということを出してあります。</p> <p>それで、現況調書でいきますと1-1の36ページをお開きいただきたいと思うんですが、ここに使用料が右の中ほどの15番まで、その後に手数料がずっと挙がっておるわけでございますけれども、これを見ていただきますと、1番が合併までに統合するよう調整するというのが1番、それから14番、15番、それから合併までに調整を行うものが2番、4番、8番、12番、それから現行のまま新市に引き継ぐというのが5番、6番、7番、それから10番、こういったふうで使用料はなっております。</p> <p>手数料については右のほうですけれども、小林市の制度に統一するというのが非常に多くございますが、その中で5番、これは狂犬病予防法に基づいて実施をされておりますので、どこも一緒なわけでございますが、これは現行のまま新市に引き継ぐというようなことで、あとは小林市の制度に統一するというようなことでございます。</p> <p>それで、また先ほどの前のほうに返っていただきまして、資料の13ページでございますが、協定項目として2つほど挙げております。</p> <p>同一又は同種の使用料、手数料等については、原則として小林市の制度等に統一する。ただし、急激な住民負担の増加を伴うものについては、経過措置等を設ける。</p> <p>それから2つ目としまして、独自の使用料、手数料については受益者負担及び負担公平の原則に立ち、適切な負担となるよう調整するというようなことでご提案を</p>

<p>会長</p>	<p>させていただきたいと思います。 以上です。 ありがとうございました。 ただいま説明いたしました協議第58号使用料、手数料等の取扱いにつきまして、何かご意見、ご質疑があればお出してください。——ありませんか。 〔「なし」と呼ぶ者あり〕</p>
<p>会長</p>	<p>ご意見、ご質疑もないようでありますので、それではお諮りいたします。第58号使用料、手数料等の取扱いにつきましては、原案のとおり確認することにご異議ありませんか。 〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕</p>
<p>会長</p>	<p>ご異議なしと認めます。よって、第58号につきましては、原案のとおり確認することといたします。 次に、協議第59号公共的団体等の取扱いについてを議題といたします。 総務部会より説明を願います。</p>
<p>総務部会長</p>	<p>それでは、資料の14ページからになります。 まず、資料の16ページを見ていただきたいと思いますけれども、ここに「公共的団体等」とはということで、一番上の(1)のところを見ていただきたいと思いますけれども、ちょっと読み上げてみますけれども、公共的団体等とは、農業協同組合・森林組合等の協同組合、商工会・商工会議所等の産業経済団体、青年団・婦人会等の地域活動団体や社会福祉協議会など、公共的活動を営む団体はすべて含まれ、法人たると否とを問わないというようなこと書いてございます。 それで、19ページをお開きを願いたいと思います。ここに参考資料として、これらの例ということで例示をさせていただきます。このような総務関係やら社会福祉関係、高齢者福祉関係、商工関係、農林水産関係、耕地あるいは文教関係というようなものがあるというようなことで例示をいたしております。 このような団体と、まだ、もしかしたら別にもあるというふうには思われますけれども、私どもが調査した中ではこういうものが考えられるようだというようなことでございます。 これらのあり方ということでございますので、15ページをお開きをまた願いたいと思いますけれども、協定項目第17号「公共的団体等の取扱い」、読み上げますが、公共的団体等の取扱いについては、新市の速やかな一体性を確立するため、各団体の実情を尊重しながら、統合整備について次のとおり調整に努めるものとする。また、国・県等の指導等に基づき設置された公共的団体等については、関係機関への助言・指導等をもとに、そのあり方に協議し、調整に努めるものとする。 1番として、共通の目的を有する団体は、合併時に統合するよう調整に努めるものとする。 2番、上記1の団体で、実情により合併時に統合できない団体は、合併後速やかに統合するよう調整に努めるものとする。 3番、上記1の団体で、実情により統合に時間を要する団体は、将来の統合に向けた検討が進められるよう調整に努めるものとする。 4番、上記以外の市町独自の団体等は、原則現行のとおりとする。ただし、整理できる団体は廃止または脱退の方向で調整に努めるものとする。 以上のような提案でございます。 ありがとうございました。</p>
<p>会長</p>	<p>ただいまの説明いたしました協議第59号公共的団体等の取扱いについて、何かご意見、ご質疑があればお出してください。——ありませんか。 〔「なし」と呼ぶ者あり〕</p>
<p>会長</p>	<p>ご意見、ご質疑もないようでありますので、それではお諮りいたします。協議第59号公共的団体等の取扱いについて、原案のとおり確認することにご異議ありませんか。</p>

<p>会長</p> <p>企画財政部会長</p>	<p>〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕</p> <p>ご異議なしと認めます。よって、協議第59号につきましては、原案のとおり確認することといたします。</p> <p>次に、協議第60号補助金、交付金等の取扱いについてを議題といたします。企画財政部会より説明を願います。</p> <p>説明をさせていただきます。資料の21ページでございます。</p> <p>これにつきましても、先ほど申しあげましたように、各分科会、専門部会等で協議をする前に、幹事会で決定をしまして、これに基づいて協議をしてもらったということでございます。</p> <p>それで、現況調書でいきますと1-2の2ページでございます。ここに全体の総括が挙がっているわけですが、これも5つの専門部会にまたがっておるわけでございますけれども、私のほうで一括して説明させていただきたいと思っておりますが、新たな制度等を制定するというのが1番、それから14番がございます。それから、廃止すると、廃止するよう調整する、廃止の方向で調整するというのが2番、4番、6番、それから33番でございます。これにつきましては、事業実施市町を見ていただくと分かるとおり、3市町のうちのいずれかで実施をしていたもので、独自のものであるというようなことで、今後は廃止の方向で調整するというような協議がなされたようでございます。</p> <p>それから、3番目が現行のまま新市に引き継ぐ。それから7番、それから9番、10番、それから右のほうに行きまして11番、16番、17番、18番、19番、20番、あとずっとあるわけですが、ページをめくりまして22番、24番、それから27番以降30番まで、それと32番、これにつきましては小林市の制度に統一するというようなことでございます。</p> <p>それと、統合するよう調整するというものも調整案としてありますが、これにつきましては5番、15番、それからめくりまして21番、25番、26番、こういったものがございます。</p> <p>そういったことで、それを受けましてまた返っていただきたいんですけども、21ページで「補助金、交付金の取扱い」でございますが、3つほど提案させていただきたいと思っております。</p> <p>まず1点目は、同一又は同一の補助金、交付金等については、原則として小林市の制度に統一するというようなことでございます。</p> <p>2番目といたしまして、独自の補助金、交付金等については、その公益性及び必要性について検討した上で、他の補助金制度との均衡を考慮し調整する。</p> <p>それから3番目といたしまして、整理統合できる補助金、交付金等については、統合または廃止の方向で調整するというようなことで提案をさせていただきたいと思っております。</p>
<p>会長</p>	<p>以上です。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>説明はお聞きのとおりなんですが、協議第60号補助金、交付金等の取扱いについて、何かご意見、ご質疑がある方はお出してください。どうぞ、赤崎さん。</p>
<p>赤崎委員</p>	<p>1件だけ。16ページの関連条文抜粋の中の157条です。団体の長は総合調整及び指揮監督権を有するというのがありますね。このことについて、事務局の現在での解釈の範囲としてどういったような例が考えられるのか、ご案内いただきたいと思っております。</p> <p>以上です。</p>
<p>会長</p> <p>企画財政部会長</p> <p>会長</p>	<p>企画財政部会。（発言する者あり）</p> <p>これにつきましては、協定項目第17号の資料でございますので、先ほど……。申し訳ありません。よろしゅうございますか。もう一つ前の59号でありました。</p> <p>ほかにありませんか。</p>

会長	<p>〔「なし」と呼ぶ者あり〕</p> <p>それじゃ、お諮りいたします。ないようでありますので、協議第60号補助金、交付金等の取扱いにつきまして、原案のとおり確認することにご異議ありませんか。</p>
会長	<p>〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕</p> <p>ご異議なしと認めます。よって、協議第60号につきましては、原案のとおり確認することといたします。</p> <p>ここで、昼食のために暫時休憩をいたします。午後は1時から再開をいたします。休憩に入ります。</p>
会長	<p>午後0時00分休憩～午後0時58分再開</p> <p>それでは、休憩前に引き続き会議を開きます。</p> <p>次に、協議第61号自治会・行政連絡機構の取扱いについてを議題といたします。</p>
総務部会長	<p>総務部会より説明を願います。</p> <p>それでは、資料の22ページからになります。協議第61号自治会・行政連絡機構の取扱いということで、23ページが提案の形でございますけれども、現況調査資料の1-2の46ページをお開きを願いたいと思います。</p> <p>ここには組織運営が小林、高原、野尻それぞれの形が示してございます。47ページ、48ページまでのことですが、ここの中では、課題としては、この構成単位が異なっておるとか、区長の業務内容が違っておる、それからまた身分等も違っておると。小林市は任意の団体の長、高原、野尻につきましては非常勤特別職であると。それから報酬額、そういうもの等が違っておるということでございます。</p> <p>それから49ページになりますと、文書配布等ということでございまして、さまざまな文書等を配布をいたしておりますが、これらは、課題としては、自治会組織への配布方法が各市町で相違、違っておると。それから、未加入世帯への対応にも違いがあるというようなことでございます。</p> <p>それから、次の50ページになりますと、自治会コミュニティ団体の状況、現況でございまして、自治会連合会あるいは事務局等、区長会の研修会というものがここにあってございます。</p> <p>これらを踏まえまして資料のほうの23ページになりますけれども、協定項目第19号「自治会・行政連絡機構の取扱い」ということで、自治会・行政連絡機構については、以下のとおりの取扱いとする。</p> <p>1番として、区の構成単位の名称は、小林市の制度等に統一し、「組」とする。ただし、合併年度は旧町の例による。</p> <p>それから2番として、区長の業務のうち、2町の文書送達業務は、廃止する。</p> <p>3番、区長の身分は、小林市の制度等に統一し、任意団体の長とする。ただし、合併年度は旧町の例による。</p> <p>4番、行政推進業務委託料いきいき地域づくり区交付金の算定基準については、合併までに調整するというようなこと。</p> <p>以上でございます。</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>説明はお聞きのとおりであります。協議第61号自治会・行政連絡機構の取扱いにつきまして、何かご意見、ご質疑があればお出してください。松元さん。マイクロフォンをお願いします。</p>
松元委員	<p>小林の松元です。私の所属する小委員会では、新市基本計画とそれから地域自治区に関するいろいろ協議をずっと進めてきました。新市誕生に当たっては、地域自治区をつくるということで決まっていますね。その下に協議会があるわけです。さらに、その下に――下というと表現が悪いですが、1つの機構として、まちづくり委員会あるいはまちづくり協議会なるものを小学校区を1つの単位として新</p>

<p>会長 行政人事分科会長</p>	<p>たな自治組織をつくっていかうと、こういう方針を決めているわけです。そのことと、今現行のこの提案されるやつとはどのように分科会等では議論されたものか、そこをちょっとお聞きしたいと思います。</p> <p>総務部会で。</p> <p>行政人事部分科会の下村でございます。今の松元委員さんのご質問ですけれども、現在の小林のほうでは、平成19年度に小林市協働のまちづくり行政推進会議から指針というのが提言をされておるといことで聞いております。その指針をもとに、まちづくり推進検討委員会といことで、今検討中であるといことでありますので、それを基本に分科会で話をしたところですが、小林市が取り組んでいこうとしている住民自治のあり方、これは協働の理念によるまちづくりを積極的に推進していくといことでありますので、現在の自治会組織、古来からの地縁等で結ばれた自治会ですけれども、これが基本的にはまちづくりの基礎団体、組織といことになろうと思いますが、合併等でほかの市町村等でも取り込まれております小学校区を単位とした協議会、これを中心にいろいろなまちづくりを進めていこうといことで、基本計画、地域自治区等の取扱いの中でもありましたとおり、方向性といひますか、考え方につきましては小学校校区ごとのまちづくり協議会を組織して取り組んでいくといことで分科会で話をしたところです。</p>
<p>会長 松元委員</p>	<p>ほかにありませんか。松元さん。</p> <p>あえて申し上げたのは、私は今までずっと協議を重ねてきました。そしてなおかついろいろな全国の市町村合併を機に、こういう市の新たなコミュニティ組織といものがどんどん進んでいるわけです。一方では財政がどこの自治体も厳しいと。そういう中であって、今日までのように行政が、もう例えば地区に補助金だとかそういうことをやっておけばいい時代はもう既になくなったわけです。もっと市民の人たちが、まさに地方自治法で言う住民がどんどん行政に参画していくとい、協働していく、ここの新たな組織といものが、私はある意味では協議会の合併の大きな一方では主眼だと私は思っている。そういう中で、そこがしっかりと現行の自治組織、区、組ですね。ここの理解をしっかりとつくっておかないとなかなかうまく進まないんじゃないか。極めて私は、ここは重要なことだと思つたものですから、ぜひ今後運用に当たっては、しっかりと事前の論議ですね、そういうものを積み重ねていく必要があるんじゃないかといご意見だけ申し上げておきたいと思つます。</p>
<p>会長</p>	<p>答弁は要りませんね。——ほかにありませんか。 〔「なし」と呼ぶ者あり〕</p>
<p>会長</p>	<p>ご質疑も尽きたようでありまますので、それではお諮りいたします。協議第61号自治会・行政連絡機構の取扱いについては、これを原案のとおり確認することにご異議ありませんか。 〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕</p>
<p>会長</p>	<p>ご異議なしと認めます。よつて、協議第61号につきましては、原案のとおり確認されました。</p>
<p>厚生部会長</p>	<p>次に、協議第62号児童福祉関係についてを議題といたします。 厚生部会より説明を願ひます。 厚生部会から、協議第62号児童福祉関係についてをご説明申し上げます。 資料は25ページになります。会議資料の25ページとあと資料の1-2から、まず保育所の整備状況といことで、56から資料1-2の56ページから57ページに各市町の公立、私立の保育園の整備状況が記載されております。 課題といたしまして、3市町とも少子化により公立保育園においては定員割れをしている現状がある。民間委託等を含めて検討をする必要があるといことで、対応方針といたしまして、保育の実施基準は、現行のまま新市に引き継ぐ。定員基準を割り込んでいる現況を鑑み、経営形態については民間委託等を含めて検討し、随時調整するといことでございます。</p>

<p>会長</p>	<p>続きまして、2番目の保育所入所負担金でございます。58ページから59ページまでに記載をいたしております。これは各市町ともに国の基準を細分化し、保護者の方の保育料軽減を図っているところでございます。資料58ページの一番下のほうに表があると思いますけれども、一番右のほうに軽減率ということで、小林市が24.4、高原町が22.5、野尻町が34.2となっております。</p> <p>それで、課題といたしまして、各市町に保育料の差異がある。保育料を決定するための階層の数、所得税額区分の幅、年齢区分に差異があるので各市町の比較が難しい。国の徴収基準に対する各市町の保育料軽減率が違うため、一般財源持出し区分が異なるということで、対応方針といたしまして、2番目の保育所入所負担金について、保育料については合併後、段階的に調整し、平成24年度に小林市の制度等に統一する。ただし、合併年度は合併前の市町の例によるということでございます。</p> <p>3番目に、保育料の収納事務委託でございます。これは資料が77ページになります。これは保育料の徴収委託関係について、野尻町のみが実施をしております。対応方針といたしまして、保育料の納付方法を小林市の方針に統合するため、保育料収納事務委託の委託料に関しては廃止するというところでございます。</p> <p>4番目に、出産祝金、資料は79ページにあります。これについては小林市と野尻町が実施しているところでございます。</p> <p>課題といたしまして、野尻町については平成24年度で終了することが決定済みである。野尻町の制度は、当初、出生時と小学校入学時の2回を支給していたが、平成18年の制度廃止に伴い、既に出生時に受給したものに対しては小学校入学時にも支給することとした。そのため、小学校入学時受給者分のみ残っているということで、対応方針といたしましては、小林市の制度に統一するが、野尻町の制度は経過措置として平成24年度まで継続するというところでございます。</p> <p>以上、ご提案申し上げます。</p> <p>ありがとうございました。</p>
<p>福本委員</p>	<p>ただいまの説明いたしました協議第62号児童福祉関係につきまして、何かご意見、ご質疑があればお出してください。福本さん。</p> <p>野尻の福本ですが、この保育料についてなんです。野尻町は1つの少子化対策として保育料の補助を行っております。現行のままいくというのはなかなか難しいだろうと思うんですが、一番大きいところでやっぱり6,000円上がってきます。それを段階的に上げるということなんですが、言えば、この合併が少子高齢化をとめるためには合併せにゃいかんとじゃと言いつつながら、やっぱりこういう形でそういう負担が上がってくるというのは、やっぱり私から言わせれば逆行しているような感じがするんです。財政面を考えれば仕方がないと言われればそれまでなんです。そのあたりでもう少し検討というのはできなかったものか、ちょっと伺ってみたいと思います。</p>
<p>会長 福祉分科会長</p>	<p>どうぞ、答弁してください。</p> <p>福祉分科会の鶴田といいます。福本委員のお話しがございましたが、まずここで検討したのが公平性ということ念頭に一応検討いたしました。というのが、小林市、高原町さん、それと野尻町さんの保育料の軽減率がそれぞれ違うと。その中で、財源の持ち出しですね。ページ数でいいますと資料の58ページの一番下になりますけれども、ここの保育料軽減率Bというところを見ていただければよろしいと思います。19年度の実績を見ましても、もう1億を超えてしまうと。この財政の厳しい中で、この部分をどうするかということが一番の課題になりました。</p> <p>その中で、野尻町さんが一番軽減率が高いわけでございますが、小林市としましても24.4%と、その差をどうやって埋めていこうかということで協議を重ねまして、旧小林市と旧須木村が合併したとき、激変緩和対策として3年間で段階的にしていこうと、これを適用していこうという結論に達しまして、一応24年度までに段階的に調整していただいて小林市の制度に統一するという結論を出したところ</p>

	<p>でございます。</p> <p>参考のために別冊資料がございます。別冊の資料を用意しておりますけれども、別紙2の保育所入所負担金に関する補足資料ということで用意させていただきました。</p> <p>この1番目ですけれども、一番上ですけれども、これは保育料の階層別の児童数の一覧表と、3ページです。別冊資料の3ページです。どうしても階層の第2から第6のところが一番多いと。どこの市町も。かつその下を見ますと、先ほど言いました軽減率があります。この部分をどうするかということが一番の論議になりました。</p> <p>4ページ以降に国の基準と小林市の基準、それと高原町さん、野尻町さんの試算表を一応つけさせていただきましたが、この中で一番多いところはやっぱり1万円ほどになると。1万円の保育料値上げとなると保護者の方も大変だろうということで、3年間の経過措置を設けたというのが今までの協議結果の内容です。</p> <p>以上です。</p>
会長	<p>ありがとうございます。福本さん、よろしいですか。——ほかにありませんか。</p>
	<p>〔「なし」と呼ぶ者あり〕</p>
会長	<p>ご質疑も尽きたようでありますので、お諮りいたします。協議第62号児童福祉関係につきましては、これを原案のとおり確認することにご異議ありませんか。</p>
	<p>〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕</p>
会長	<p>ご異議なしと認めます。よって、協議第62号につきましては、原案のとおり確認することといたします。</p>
厚生部会長	<p>次に、協議第63号その他の社会福祉関係についてを議題といたします。厚生部会より説明を願います。</p>
	<p>続きまして、協議第63号その他の社会福祉関係についてご提案申し上げます。27ページをお開きください。資料1-3のまず3ページからになります。福祉事務所の組織・機構ということで、3ページのほうに各市町の組織図が記載されております。課題といたしましてはもう、社会福祉法に第14条の規定により、市においては福祉事務所を設置するように義務づけられております。それで、対応方針といたしまして、新市の福祉事務所については、本庁の福祉事務所に統合するが、窓口サービスの低下を招くことのないよう、各総合庁舎に一部受付業務を行う窓口を設置するというところでございます。</p> <p>2番目に、民生委員・児童委員及び主任児童委員についてですが、資料は4ページになります。課題といたしまして、民生委員法第4条の規定により、民生委員の定数は世帯数等により定められている。各市町にある民生委員推薦会を統合する必要があるということで、2番目の民生委員推薦会については、委員会等の調整を図り、合併までに統合する。民生委員等は任期中において、そのまま新市に受け継ぐということでございます。</p> <p>続きまして、平和祈念（追悼式典の実施等）ということで、9ページになります。</p> <p>課題といたしまして、小林市は福祉事務所、各町では社会福祉協議会が実施するなど実施主体が異なるため、社会福祉協議会での協議が必要であるということで、対応方針といたしまして、現行のまま新市に引き継ぎ、地域別の開催を継続するが、将来的には合同で追悼式を開催するよう調整し、同時に補助金等についても統一するよう調整するというところでご提案を申し上げたいと思います。</p> <p>以上です。</p>
会長	<p>ありがとうございます。</p>
福本委員	<p>ただいま説明いたしましたとおりですが、協議第63号について、何かご意見、ご質疑があられる方はお出してください。福本さん。</p>
	<p>野尻、福本ですが、この民生委員についてちょっとお伺いしたいんですが、今の</p>

<p>厚生部会長</p>	<p>野尻町では民生委員さんが1人欠員というような形で、なかなかその民生委員の仕事をしてくれるちゅうか、今高齢化社会になりまして民生委員の仕事というのが物すごい増えているんです。それに対して、費用弁償という報酬額が物すごい安くなっています。そのあたりで、野尻町では1人欠員という形になっていますけれども、ほかの市町村——小林と高原では定員というか、定数に対して欠員とか生じてないものか、ちょっと伺ってみたいんですが。</p> <p>小林の状況だけちょっと。高原はちょっと私も把握をしておりませんので。小林は102名の方、全員一応今回の改選で、改選したんですけども、病気等があられまして、現在2名の方が体調を崩してやめられたという現状で、今月1人推薦するということで、あと1人今人選をしているという状況でございます。</p> <p>報酬についても、これはもう法律で決まって、ボランティア的性格のものでございまして、各全国でもなかなか見つからないという状況は国のほうも把握しているかと思うんで、ある程度国のほうで何かそういう措置を講じていただければと思っております。</p>
<p>会長 福本委員</p>	<p>どうぞ、福本さん。</p> <p>今言われたように、国のあれですんでなかなか難しい面があると思うんですが、この民生委員の仕事ちゅうのはほんと大事な仕事だと思うんですよ。特にこの高齢化社会になって、なかなか目の行き届かないところに民生委員さんが行って、見守りじゃないですけどそういう仕事から考えたら、ほんとに大事な仕事をほんと安い報酬というか、それでやってもらっていると。そのあたりはやっぱりもうちょっと、こういう地方からこういうのを機に、もっと声を上げて守ってもらうような形で、ほんと大事なことですので、意見を上のほうに上げていただければと思いますので、またよろしく願いしておきます。</p> <p>以上です。</p>
<p>会長 種子田委員</p>	<p>ほかにありませんか。種子田さん。すみません、マイクロフォンを種子田與市さんのところへ。</p> <p>小林の種子田ですが、ただいま福本さんのほうから民生委員の案件が出ておりましたが、お尋ねをいたしますが、小林市は活動費が一人当たり、国、県が6万300円、小林から同じく6万300円いただいておるところですが、高原町と野尻町は若干上積みがされておるようなことですが、その数字を分かっておりましたら教えていただきたい、こういうことです。</p>
<p>会長 福祉分科会長 会長 種子田委員</p>	<p>わかりますか。実際的には。</p> <p>そこまで協議しておりませんので、現在資料を取り寄せますので。</p> <p>今ここで分からない……。</p> <p>というのは、合併の暁には活動費の差異が出てまいります。したがって、どの辺でこれを調整するか、そういうことが危惧されますのでお尋ねをしたところですよ。</p> <p>ただいま福本委員からおっしゃっていただきました、まことに月々1万円足らずの活動費で民生委員は地区を回っておりますが、農村部は非常に範囲が広うございます。したがって、小さなことを言うようですが、ガソリン代もないような現実なんです。そういう中であえて、もう全くのボランティアでございまして、非常に、ただいま欠員の問題が出ましたが、宮崎県下では45名の欠員補充が望まれておるところで、全国でも5,000名の欠員を生じております。都会ではまさしくこれがもう、非常に委員の登用が難しくなっております。このこともひとつご理解をいただきたいと思っております。</p> <p>以上です。</p>
<p>会長</p>	<p>じゃ、資料は後ほど種子田さんにお届けいたします。</p> <p>ほかにありませんか。</p> <p style="text-align: center;">〔「なし」と呼ぶ者あり〕</p>
<p>会長</p>	<p>それでは、質疑も尽きたようでありますので、お諮りいたします。協議第63号その他の社会福祉関係については、これを原案のとおり確認することにご異議ありま</p>

<p>会長</p> <p>厚生部会長</p>	<p>せんか。</p> <p style="text-align: center;">〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕</p> <p>ご異議なしと認めます。よって、協議第63号につきましては、原案のとおり確認することといたします。</p> <p>次に、協議第64号保健・医療関係（保健、健康づくり）についてを議題といたします。</p> <p>厚生部会より説明を願います。</p> <p>協議第64号保健・医療関係（保健、健康づくり）についてご説明をいたします。</p> <p>資料の28から29ページになります。</p> <p>まず1番目、保健センターについて、資料の17ページにございます。まず、課題といたしまして、地域住民の健康づくりの拠点としての活用をしていくが、事業実施をどのように進めるかということで、各市町で保健事業がいろいろ特徴を持って実施しているところがございますので、対応方針といたしまして、保健センターについては健康増進・保健予防のための組織とし、地域住民の健康づくりの拠点とする。センターの機能を効率的に活用しながら、積極的な事業展開を行うよう合併までに統一するというところでございます。</p> <p>2番目に、母子健康についてですが、21から24に乳児健康診査、1歳6カ月児健康調査、3歳児健康調査及び母子指導についてということでもいろいろ項目を挙げておりまして、対応方針といたしまして、乳幼児健康診査、1歳6カ月児健康診査、3歳児健康診査及び母子健康指導については健診の委託先、実施方法を統一するよう調整するが、健診の会場までの距離の不均衡が生じるため、当面、現行のまま実施することとし、合併後3年を目処に統合するよう調整するというところでございます。</p> <p>続きまして、3番目、成人健康診査でございます。これも31ページから36ページまで、それぞれの成人健康診査（胃がん、肺がん、大腸がん、子宮がん、乳がん、肝炎等）について記載をいたしております。</p> <p>それで、対応方針といたしまして、成人健康診査（胃がん検診、肺がん検診、大腸がん検診、子宮がん検診、乳がん検診、肝炎検診）については、集団検診における個人負担金は現在調整を行っており、平成21年度に統一される。委託先を含む検診の差異については、統一する方向で合併時までに調整するというところでございます。</p> <p>続きまして、4番目に、人間ドックの助成事業ということで、37ページになります。これにつきましては、課題として、高原町のみが人間ドック助成事業を30歳以上の全町民を対象に実施しているということでございまして、対応方針として人間ドック助成事業については、基本健康診査から特定健康診査に変わり、健康診査は行政から保健所へ変更になっているため、保健事業では実施しない方向で調整するというところでございます。</p> <p>以上、ご提案申し上げます。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>ただいまの説明いたしました協議第64号保健・医療関係（保健、健康づくり）につきまして、何かご意見、ご質疑があればお出してください。——ありませんか。</p> <p style="text-align: center;">〔「なし」と呼ぶ者あり〕</p>
<p>会長</p>	<p>ご意見、ご質疑もないようですので、それではお諮りいたします。協議第64号保健・医療関係（保健、健康づくり）につきましては、原案のとおり確認することにご異議ありませんか。</p> <p style="text-align: center;">〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕</p>
<p>会長</p>	<p>ご異議なしと認めます。よって、協議第64号につきましては、原案のとおり確認することといたします。</p> <p>次に、協議第65号その他関係（住民）についてを議題といたします。</p>

厚生部会長	<p>厚生部会より説明を願います。 協議第65号その他関係（住民）についてをご説明申し上げます。 資料の30から31ページをご覧ください。 1の住民窓口ということで、資料の49ページに各市町に出張所並びに支所を設けておりますので、その対応方針といたしまして、高原町庁舎、野尻庁舎の窓口業務は、小林市須木庁舎にならい調整をする。 西小林出張所及び紙屋支所（出張所）の窓口業務は、現行のまま新市に引き継ぐということでございます。 以上です。</p>
会長	<p>ありがとうございました。 協議第65号その他関係（住民）につきまして、何かご意見、ご質疑があればお出しください。——ありませんか。</p>
会長	<p>〔「なし」と呼ぶ者あり〕 ご意見、ご質疑もないようですので、それではお諮りいたします。協議第65号その他関係（住民）につきましては、原案のとおり確認することにご異議ありませんか。</p>
会長	<p>〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕 ご異議なしと認めます。よって、協議第65号につきましては、原案のとおり確認することにいたします。 次に、協議第66号その他関係（選挙）についてを議題といたします。</p>
総務部会長	<p>総務部会より説明を願います。 それでは、資料32ページからになりますが、協議第66号その他関係（選挙）についてでございます。 これにつきましては、資料1-3の63ページをお開き願いたいと思います。ここに選挙関係が、その他関係の選挙ということでお示しをしておりますけれども、投票所関係、選挙人名簿登録、そういう事務局のあり方、そのようなものが載っているところでございます。 64ページの上から2段目のところには、投票所の設置数ということで書いてございますけれども、現状を見てみますと、小林市35カ所、高原町17カ所、野尻町が12カ所、合計64カ所あるというようなことで、これについては現行のまま引き継ぎますよということでございます。 それから、もう一つ下の段のところに行きますと、③と書いて、投票所の閉鎖時刻の差異というようなのが課題になっておりますけれども、現状では、小林市が28カ所午後8時に閉鎖、4カ所は午後6時に閉鎖、3カ所は午後7時閉鎖というような形でございます。高原町においては17カ所、野尻町につきましては12カ所すべてが午後6時に閉鎖というような形でございますので、これらに対する対応方針が決められておるところでございます。 選挙区を設けて増員選挙をするというような小委員会での調整ができたようでございますが、この増員選挙の場合におきましては、有権者の投票行動等を検証しながら、投票所の運営方法を合併までに調整するというような形でございました。それから一般選挙についても同じような形の提案でございます。 次に、66ページをお開き願いたいと思います。これは65ページのところから来ておりますけれども、66ページの2段目のところを見ますと、②ということで、期日前投票の取扱いということでございます。対応方針を見てみますと、期日前投票所は本庁舎・須木庁舎・高原庁舎、野尻庁舎に各1カ所とするということでございます。閉鎖時刻は合併までに調整するというような形でございます。 それから、68ページの一番上を見てほしいかと思いますが、開票事務の取扱いの部分でございます。これは、増員選挙については選挙区が設けられますので、高原選挙区、野尻選挙区にそれぞれ開票所を設けると。 それから、最初に行われる一般選挙でございますが、これはもう開票所を1カ所</p>

	<p>に集約をして、一括して行うという形でございます。</p> <p>それから同じページ、68ページの一番下を見てみますと、④として開票開始時刻の取扱いということでございますので、これは1つの自治体として広くなりますので、対応方針としては投票箱送致に要する時間等を考えながら調整する必要があるという形でございます。</p> <p>それから70ページのところに、真ん中、①がございますけれども、選挙公費負担の取扱いということで、これは小林市の制度に統一するという形になっております。公費負担が市と町では若干違うようでございますが、市においてはポスター印刷、運動用のはがき、そういう等も見れる形になっておりますので若干広がってくるというものでございます。</p> <p>以上のようなものから、また33ページに返っていただきたいと思っておりますけれども、協定項目第25号「各種事務事業の取扱い」のうち(19)その他関係の(選挙)ということですが、1番、投票所については、現行のまま新市に引き継ぐと。</p> <p>2番、投票所の閉鎖時刻についてでございますが、まず1番として、公職選挙法(昭和25年法律第100号)第34条第1項の規定により行われる増員選挙、これは有権者の投票行動を十分検証する必要がある、有権者はもちろん、立候補者にとっても不公平感のない投票所運営を合併までに調整するという形でございます。</p> <p>それから2番として、合併後、最初に行われる一般選挙でございますが、これも同じ調整方針で、同じでございます。</p> <p>それから大きな3番でございますけれども、期日前投票所は本庁、須木庁舎、高原庁舎、野尻庁舎に各1カ所とする。閉鎖時刻については合併までに調整をするということです。</p> <p>それから4番、開票所については、選挙区ごとに設置する必要があるため、選挙区の設置次第で開票事務の取扱いが異なるということですが、これは選挙区を設けてするという形はもう決まっておりますので、1番として、公職選挙法第34条第1項に規定して行われる増員選挙については、高原選挙区、野尻選挙区にそれぞれ開票所を設けると。</p> <p>2番、合併後、最初に行われる一般選挙については、1開票所に集約し、一括して開票事務を行う。</p> <p>5番、開票開始時刻の取扱いについては、投票箱送致に要する時間を勘案し、開票時刻を設定する必要があるため、合併までに調整をするということです。</p> <p>それから6番、選挙公費負担の取扱いについては、小林市の制度等に統一する。</p> <p>以上でございます。</p>
会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>協議第66号その他関係(選挙)につきまして、何かご意見、ご質疑があればお出してください。——ありませんか。</p>
会長	<p>〔「なし」と呼ぶ者あり〕</p> <p>ご意見、ご質疑もないようでありますので、お諮りいたします。協議第66号その他関係(選挙)については、原案のとおり確認することにご異議ありませんか。</p>
会長	<p>〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕</p> <p>ご異議なしと認めます。よって、協議第66号につきましては原案のとおり確認をすることといたします。</p>
厚生部会長	<p>それでは次に、協議第31号の1障害者福祉関係についてを議題といたします。厚生部会より説明を願います。</p> <p>協議第31号の1についてご説明を申し上げます。</p> <p>これは須木で行われた協議会の中で、もう一度考え直してほしいというご意見をいただきまして、35ページにありますけれども、4番目だけ、1から3はもうご確認をいただいた事項でございますので、4番だけを説明申し上げます。</p> <p>重度心身障害者医療助成事業でございます。これは、県の事業が主でございます。</p>

	<p>て、この重度心身障害者医療費助成に該当する方以外に小林市で療育手帳B1、B2の方にも同じような医療費助成事業を実施しているところがございます。これにつきましては、都城市さんが同じく療育手帳のB1、B2の方に2分の1を補助しているという事業で、ほかの自治体においては実施は、重度心身障害に該当する方だけで、小林市と都城市だけがB1、B2の方を助成をしているという状況でございます。これを合併時に高原町さん、野尻町さんのB1、B2の方に適用するようにしてということで一応財政当局といろいろ調整をいたしました。なかなか財政が厳しいということで、20年度予算におきましても、今の財政状況で扶助費が聖域化されてはもうなくなりまして、20年度においても敬老祝金等の削減とかそういう福祉の部分においてもある程度カットをする事態がありました。</p> <p>そういうことを考えたときに、なかなか全体で1,200万という数字を実施するのがなかなか難しいのではないかとということで、誠に心苦しいんですが、当初ご提案申し上げましたとおり、合併時に統合するよう調整するが、小林市のみ単独助成事業については合併時に廃止する方向で調整するという形でもう一度ご提案を申し上げたいと思いますので、よろしく願いいたします。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございました。</p>
<p>福本委員</p>	<p>説明はお聞きのとおりなんですが、協議第31号の1障害者福祉関係について、何かご意見、ご質疑があればお出しください。福本さん。</p> <p>野尻、福本ですが、この件に関しまして、もう一度協議をお願いしますと、差戻しというような形でお願いしたんですが、その協議をする上で、どのような内容で協議をされたものか、ちょっと伺ってみたいと思います。</p>
<p>会長 福祉分科会長</p>	<p>どうぞ、事務局。</p> <p>それでは、分科会の協議内容について説明をさせていただきます。</p> <p>まず、別冊をご覧ください。1ページ、2ページなんですけれども、まず2ページにつきましては、前回福本委員さんから療育手帳の区分について説明を求められまして、詳しく資料をつけました。この中で、2ページなんです。療育手帳。これのA1からA3、これが県が補助対象となっています。重度障害者というふうに認定されています。小林市の場合はその下のB1、中程度の知的障害を有するものと、それとB2、軽度の知的障害を有するもの、ここに関しても助成を行っております。</p> <p>かえって、1ページをご覧ください。ありがとうございます。1ページで県の補助対象額、これが先ほど言いましたA1からA3の部分の医療費です。</p> <p>前回、医療費で説明しましたが、この金額につきましては、現物給付、市内、県内の入院の場合、1,000円を払って、あとはうちのほうで精算しております。というのが、高額医療分をうちのほうが各健保からもらいますので、それを引いた金額で計上してあります。これを見ていただくと分かりますように、県の補助対象額が1億1,800万ほどございます。2分の1が市の持出しですので、5,900万ほどの持出しがあると。</p> <p>今、問題になっているのが、市の単独分です。現在小林市だけがやっておりますので890万ほど持出しがあると。これを19年度ベース、小林の。で試算した場合、高原町、野尻町の分がどうなるかということを書いてあるのが2番目でございます。まず、小林市の891万169円、これから旧須木村との合併で、平成20年度までは身障手帳の3、4級も支給するという経過措置がございましたので、その分を引いた残りがB1、B2の支給分となります。これを対象人員で割りますと、年間一人頭の医療費が出てまいります。4万9,754円、高原町さんと野尻町さんに該当人員を聞いた数字が57と52ということでこの数字を挙げておりまして、右上のほうなんです。ここに計算式を入れておりますが、891万から身障3、4級を引いて、引いた額が小林市の、実際のB1、B2の助成額と。それと高原町さん、野尻町さんについては、その平均の医療費に人数を掛けた金額を挙げています。合計1,223万9,465円という財源が必要じゃないかと、</p>

<p>会長 福祉委員</p>	<p>19年度ベースで、これをもちまして企画財政部会といろいろ協議しました。全体的な福祉関係もですが、財源を用意できるかどうかということで協議した結果、こういう結果になったものです。</p> <p>どうぞ、福本さん。</p> <p>もう財政が大変だというのは重々分かっているんですが、この中で、この下の2ページの説明の中で、B1、B2、中度知的障害を有するもの、知能指数がおおむね36以上50以下、B2についてはおおむね51から70以下と書いてあるんですが、これを例えば生活レベルというか、そこまで調査してしたのか、ちょっとそこあたりはどうなんでしょうか。</p>
<p>会長 福祉分科会長</p>	<p>答弁できますか。</p> <p>よろしいですか。この重身医療につきましては、所得制限を設けております。そこに該当しない方は支給はできないということになっておりますので、その高原町、野尻町さんのその所得についてはちょっと調査しておりません。</p>
<p>福祉委員</p>	<p>ちょっと施設に行っちゃっていろいろ話を聞いてみたんです。このB1、B2というのがどのような人なのかと。聞いてみると、自立した生活ができるという形の文言で説明があるんですが、実際は、生理的なものは処理できると。例えば排尿とか排便とか食事をとる、その程度はできると。ただ、自分で例えば食事をつくって食べられるとか、病院に自分で行って、1人で病院に行けるとか、そういう段階ではないと。それと、このB1、B2の対象になる方が、もうほとんどが50以上の方で、もう就労をすることもできないと。もう年金だけで生活している人たちが多いんです。だから、こういうところを踏まえたなら、やっぱりそういうのを踏まえた上で協議をしてもらえたかもらえないかというのはやっぱり大きいと思うんです。そこでやっぱり本当に切っていいものかどうなのかというのを、私はこういうのを踏まえた上で財政のほうにも協議していただきたいなというものがあつたんですが、そのあたりはいかがでしょうか。</p>
<p>福祉分科会長 会長 福祉委員</p>	<p>生活実態については、まだ把握していない上で協議しております。</p> <p>はい、どうぞ。</p> <p>ほんと、一番弱いのが障害者だと思うんです。もう一つだけ聞いたかったのは、この高原と野尻町が入ってきた時点で約500万ちょっと上がるということだったんです。もし万が一これ合併しなかったとき、小林市が一応今約600万、700万程度出していますけど、これ合併しなかったら700万であつたらこの補助というのは続いたのかどうか。</p>
<p>会長 福祉分科会長</p>	<p>逆に言えば、野尻と高原が入ってくるということになったので、この補助がなくなるというのなら、逆に言えばその700万をどうにか振分けをして、廃止するんじゃないかと、そういう検討はできなかったものか、伺ってみたいと思います。</p> <p>事務局。</p> <p>合併をしなかった場合というのはちょっと言えませんけれども、財政的な状況を見ながら、それぞれ内容の見直しはあると思います。</p> <p>以上です。</p>
<p>会長 首藤委員</p>	<p>ほかにありませんか。首藤さん。</p> <p>医療費助成を廃止するということで、前回7月の協議会ですか、差戻ししましたわけです。それから3カ月たっているんですけども、今、当局の話では、その間現場の声を聞いてないと、生活自体、まだ把握していないという今答弁がありました。非常に残念です。その間財政的なことの話はされたということですけども、実態把握というのをされてなかったということに非常に残念に思います。</p> <p>先ほど福本議員も言われましたけれど、私のほうも個人的に施設やそういう方のお話を伺いに行きました。療育手帳のB1、B2所持者の人とは、生活していく中でどういうレベルの人か、施設に尋ねました。そしたら、福本議員もおっしゃいましたけれど、やはり自分で金銭管理や健康管理ができない。家事とか自立支援、</p>

	<p>対人関係など、生きていく上で物質面、精神面でも第三者の援助が必要であるということをお聞きしました。要するに弱者なんです。</p> <p>医療費助成が廃止されると医療費負担が重くなって、検診にも行きづらくなって、その結果、重症化していきます。そうすると、医療費の抑制よりも医療費の増額を招く結果になっていきます。福祉では、出費を削減できても医療費ではそれ以上の赤字を拡大する危機に陥っていくと私は思います。目先だけ見て全体を見てないからだと思います。</p> <p>緊縮財政だからこそ医療費助成を削ることより、逆に、多額の医療出費を招くこの矛盾に私は目をつむるわけにはいきません。本当に必要なものを見極めることができないと福祉は成り立っていかない。そういうことを言って、この提案には私は反対します。</p>
会長	<p>ほかにありませんか。</p>
	<p>[「なし」と呼ぶ者あり]</p> <p>ほかにはないようですが、これ今までこの協議会ではあまりやったことがありませんでしたけども、採決をするのに当たりまして、意見がどうしても食い違うということであれば、挙手採決でもしなければいけないかなど。もう最後になりましてこういうことになったわけですけども、これは意見がなかなか整わないような気がいたします。したがって、ご異議ありませんかと言っても異議があるわけですから、ここで、申し訳ありませんが、挙手による採決をさせていただきます。</p> <p>これは議会等でいいます特別決議と同じでありまして、3分の2以上の賛成が必要であります。したがって、これから原案について私がお諮りしますので、重度心身障害者医療費助成のこの合併時に統合するよう調整するが、小林市のみの単独助成事業分については合併時に廃止する方向で調整する。これは原案でございます。したがって、この原案に賛成の委員の皆さんの挙手をお願いいたします。</p>
会長	<p>[賛成者挙手]</p> <p>挙手少数であります。したがって、このことについては再度検討するということになるかと思いますが、しかしあと一回しか。</p>
	<p>ここで暫時休憩させていただきます。このままでは1つ積み残しが出てきそうなので。</p> <p>各町、市で意見を調整をしていただくわけにはいきませんか。ここでいきなり今みたいに挙手採決しますと、事情が分からないまま手を挙げられない方もいらっしゃると思いますので。どうぞ、清水さん。</p> <p>今みんなでよろしいということになれば財政的にはよろしいということになるんですか。みんながいいとすれば。そこ辺の調整ができちよらんといいですよということにはならんのですけれども、そこら辺たいが予算的なものでこういうことになるといいますから、予算の範囲内が許される範囲内の中にあるということ、そんなないと思いますけれども。</p>
会長	<p>暫時休憩いたします。</p>
	<p>午後1時53分休憩～</p>
会長 松元委員	<p>どうぞ、休憩中で。</p> <p>賛否をとったわけですね。で賛成少数ですよ。いわゆる1,220何万ですね、これでいきなさいよという声大きいわけでしょう。そしたらそれで調整して、文書を休憩時間で提案されたらいかがですか。それで結論、白か黒かといったわけですから。私はそういうふうに理解します。高原、野尻も広げなさいよとやるわけですから。</p>
会長	<p>これはまあ小林だけがやっていた問題でして、高原と野尻はこういうのがなかったんです。ですから、最初から、高原、野尻さんではあまり関係がないように思っているかもしれませんが、私のところは、続けるとしても小林だけ続ければそれは900幾らで――万ぐらいで済むんでしょうが、これ合併すると一緒にやらざるを得ないんで、当然そこに400何万円の増が出てくるわけでございます。したが</p>

西道委員	<p>って、財政的な見地からいろいろ検討したんだけど、原案は前のおりで出さざるを得なかったというのが部会のご意見のようなんですけども。</p> <p>ちょっとマイクロフォンを使って。ちょっと声が聞こえない。</p>
西道委員	<p>都城は2分の1にされたというような説明を受けたんですが、これを小林市も同額、その2分の1にしてもらうと、小林市の持ち分より200万ほど少なくなるんじゃないかと思いますが、そういう意見なんですけれども、どうなんでしょうか。</p>
会長	<p>先ほど私が意見を求めたのは、小林では勉強会の折に3つの意見が出ました。したがって、そういう意見が、今おっしゃった、西道さんがおっしゃったその2分の1案が出てくるかなと、あるいは原案のとおりでいいじゃないかという案、そして廃止という3つの案が、これ採決をしてもそれぞれが3分の2をとるちゅうことは非常に難しそうなので、どうすればいいかなと思って今頭を悩ませているんです。確かに2分の1案というのもあるんです。（発言する者あり）</p> <p>今事務局にちょっと協議をさせますので、ちょっと10分まで、2時10分まで休憩いたします。</p>
	午後2時10分再開
会長	<p>引き続きまして会議を開きます。</p> <p>31号の1の部分的な問題でありますけれども、重度心身障害者医療助成費につきまして、原案はこれを廃止するというご意見でしたが、賛成少数でこれは否決をされましたので、再度お諮りしたいと思うんですが、先ほど意見として2分の1案、つまり都城さんが、とっておられるような案でいかがかという意見が小林市のほうから出ました。そのことについて、大体まとまるっていうと語弊がありますけれども、私のほうで議案を今用意させますけれども、あらかじめ皆さん方のご意見をちょっと伺っておきたいと思いますが、野尻町さんはいかがでございますか。2分の1案で大体よろしゅうございませうか。</p>
	〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕
会長	<p>はい。高原町さんはいかがですか。よろしいですか。</p>
	〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕
会長	<p>小林さんはよろしいですか。松元さん。</p>
松元委員	<p>先ほども質問があったんですけども、財政の観点から、きっぱり切るといふことのように思ってたんですけども、私はもっともっと障害者のいる、障害者本人もさることながら、家庭を含めて、ほんとに大変ですよ。18年度からいろいろ法律も変わりましたね。ますます厳しい状況に追い込まれています。私はこのところはほんとに担当課はしっかり把握してほしいと思う。それなしにただ財政面から切るといふのは、電卓をたたけば簡単でしょう。僕はそここのところはやっぱり行政の、厳しい中でもそここのところは手を差し伸べるんだという政策があつてしかるべきだと、そういう意見だけはぜひ申し上げておきたいと思つてます。</p>
会長	<p>ご意見として受けとめておきたいと思つてます。</p>
会長	<p>それでは、2分の1案が大勢のように私は受けとめました。したがって、正式な議案を提案を申し上げます。</p> <p>暫時休憩します。</p>
	午後2時12分休憩～午後2時30分再開
会長	<p>休憩前に引き続き会議を開きます。</p>
会長	<p>議案の配付漏れはありませんか。——それでは、協議会の責任におきまして修正案をつくり提案をいたします。</p>
会長	<p>31号の1であります、重度心身障害者医療費助成の項につきまして、合併時に統合するように調整する。ただし、小林市のみの単独助成事業分については現行補助率の2分の1とする方向で調整する。ご提案を申し上げます。</p>
会長	<p>では、お諮りいたします。ただいま提案を申し上げました議案について、このとおり確認するにご異議ありませんか。</p>
	〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

会長	<p>ご異議なしと認めます。よって、31号の1でありますけれども、修正案をもって終結をさせていただきます。</p>
事務局	<p>以上で、お諮りすべき案件はすべて本日分については議了いたしました。あと確認事項だけが残っております。事務局より確認事項を願います。</p> <p>確認事項でございますが、36ページの第9回の小林市・高原町・野尻町合併協議会が10月30日の木曜日、午後1時30分より高原町総合保健福祉センター「ほほえみ館」の神武ホールで開かれる予定でございますので、ご配慮のほどお願いいたします。</p> <p>それと、本日の協議をもちまして委員さんたちのご努力により98%が終了したことを追加として報告いたします。</p> <p>以上です。</p>
会長 事務局	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、堀会長、どうもありがとうございました。</p> <p>皆さん、長時間にわたり本当にお疲れさまでした。</p> <p>以上をもちまして、第8回協議会のすべてを終了いたします。</p> <p>なお、お帰りの際は交通事故等に気をつけてお帰りください。お疲れさまでした。</p> <p style="text-align: center;">午後2時33分閉会</p>

会議録署名委員 杉元 豊人

会議録署名委員 種子田 與市